

## 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
106-253	高等学校	国語科	言語文化	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		

### 1. 編修の基本方針

- 古典や近現代のすぐれた文章に触れることにより、言語感覚を磨き、知識と教養を身に付け、豊かな感性や情緒を育むことができるようとした。
- 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、思考力・判断力・表現力を養い、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。
- 対話的・協働的な学習活動を積み重ねることにより、さまざまな社会的要請に応え得る人間性の育成に役立てられるようにした。
- 人間・生命・自然などに目を向けさせ、それらが我が国の伝統と文化の中でどのように表現されてきたかを知ることができるよう配慮した。
- 歴史的・文化的背景を踏まえて国語文化を捉え、生徒一人一人がその伝統の担い手であることを自覚させることを期した。

### 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
現代文編	・真理を探求する人間のさまざまなりょうを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した（第1号）。	p. 40～p. 50 p. 54～p. 55 p. 68～p. 82 p. 84～p. 87 p. 100～p. 108 p. 111～p. 122
	・韻文作品の鑑賞を通して、豊かな情操を養うことができるよう配慮した（第1号）。	p. 54～p. 64 p. 90～p. 97
	・「作者解説」「文学のしるべ」を適宜設定し、興味・関心に応じて知識と教養を広げられるようにするとともに、生徒を読書へ誘うようにした（第1号）。	p. 38 p. 39 p. 51 p. 52 p. 65～p. 66 p. 83 p. 88 p. 109 p. 110 p. 123 p. 124
	・自主・自律、労働といった、現実社会の諸問題を含む題材を採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した（第2号）。	p. 26～p. 37 p. 68～p. 82 p. 84～p. 87
	・「言語活動」を通して、主体性を發揮して課題に取り組めるようにした（第2号）。	p. 84～p. 87 p. 98
	・生命、社会制度といった、現実の諸問題に深く関わる題材を採録し、生命を尊ぶ態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した（第4号）。	p. 58～p. 61 p. 68～p. 82 p. 84～p. 87
	・「隨想」の単元を設定し、我が国の言語文化に理解を深める教材を用意した（第5号）。	p. 14～p. 24
古文編	・真理を探求する人間のさまざまなりょうを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した（第1号）。	p. 148～p. 149 p. 154～p. 159 p. 162～p. 167 p. 222～p. 227
	・「古文を読むために」を適宜設定して、文語のきまり等について知識を補えるようにした（第1号）。	p. 131～p. 133 p. 136～p. 137 p. 150～p. 152 p. 169～p. 172 p. 185～p. 186 p. 201～p. 202 p. 210～p. 211

	<ul style="list-style-type: none"> <li>「言語活動」を通して、主体性を發揮して課題に取り組めるようにした（第2号）。</li> </ul>	p. 140 p. 146～p. 147 p. 182～p. 183 p. 192～p. 195 p. 198～p. 199
	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典における理念や社会秩序についての基本的な考え方方に深く関わる題材を採録し、現代の社会や人間関係にも共通する問題として、生徒が考えを深められるようにした（第3号）。</li> </ul>	p. 128～p. 129 p. 134～p. 135 p. 154～p. 159 p. 162～p. 167 p. 174～p. 181 p. 218～p. 220
	<ul style="list-style-type: none"> <li>古代の戦乱を取り上げた題材を採録し、人間の感情の普遍性を読み取ることによって、生徒が倫理や道徳の問題を現実に即して考察できるよう配慮した（第4号）。</li> <li>自然鑑賞に深く関わる題材を採録し、表現を吟味する活動を通して、生命・自然を尊重する態度を養えるよう配慮した（第4号）。</li> </ul>	p. 188～p. 197  p. 162～p. 167 p. 204～p. 207
	<ul style="list-style-type: none"> <li>冒頭の「古文の学習」以下、「作品解説」やコラム「古典のしるべ」等を適宜設定して、我が国の言語文化について、外国との関係や歴史的背景を踏まえて理解できるようにした（第5号）。</li> </ul>	p. 126～p. 127 p. 130 p. 135 p. 138～p. 139 p. 140 p. 145 p. 146～p. 147 p. 160 p. 161 p. 167 p. 168 p. 184 p. 200 p. 208 p. 209 p. 221 p. 228
漢文編	<ul style="list-style-type: none"> <li>真理を探究する人間のさまざまなりようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した（第1号）。</li> <li>「漢文を読むために」「漢詩のきまり」を適宜設定して、漢文訓読のきまり等について知識を補えるようにした（第1号）。</li> </ul>	p. 240～p. 241 p. 244～p. 245 p. 248～p. 249 p. 274～p. 279  p. 233 p. 235 p. 237 p. 242～p. 243 p. 246～p. 247 p. 262～p. 263 p. 272 p. 286
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「言語活動」を通して、主体性を發揮して課題に取り組めるようにした（第2号）。</li> </ul>	p. 250～p. 252 p. 264 p. 281～p. 284
	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典における理念や社会秩序についての基本的な考え方方に深く関わる題材を採録し、現代の社会や人間関係にも共通する問題として、生徒が考えを深められるようにした（第3号）。</li> </ul>	p. 256～p. 259 p. 260～p. 261 p. 266～p. 271 p. 274～p. 279
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然鑑賞に深く関わる題材を採録し、表現を吟味する活動を通して、生命・自然を尊重する態度を養えるよう配慮した（第4号）。</li> </ul>	p. 254～p. 255
	<ul style="list-style-type: none"> <li>冒頭の「漢文の学習」以下、漢文が我が国の言語文化に与えた影響について理解できるようにした（第5号）。</li> <li>「作品解説」やコラム「古典のしるべ」を適宜設定して、中国の歴史的背景を踏まえて作品等を理解できるようにした（第5号）。</li> </ul>	p. 230～p. 231 p. 232 p. 234 p. 236 p. 240～p. 252 p. 260～p. 261 p. 264 p. 280 p. 285

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 第二条第3号及び、学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各編の各教材の最後に「学習の手引き」「言語活動の手引き」「言葉の手引き」といった課題を用意し、発表や話し合いを含む多様な学習活動を設定した。教材の内容や構成などについて理解を深め、自らの考えを的確に表現する資質・能力を養うとともに、生徒相互の意見交流を通じて、多角的で客観性のある批判的思考能力を養えるよう配慮した。
- 書体にユニバーサルデザインフォントを取り入れたほか、カラーユニバーサルデザインにも配慮し、すべての生徒にとって学びやすい紙面となるよう配慮した。

## 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
106-253	高等学校	国語科	言語文化	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		

### 1. 編修上特に意を用いた点や特色

#### ①単元構成・教材選定

- ・国語の資質・能力を育成し、我が国の言語文化に対する理解を深めるため、全体を「現代文編」「古文編」と「漢文編」の三編で構成し、各編は文種（ジャンル）を基本にした単元構成として、系統的に学習ができるように教材を配置した。
- ・「現代文編」は、近代以降の小説と詩歌、および、我が国の言語文化を題材にした作品を取り上げた。
- ・「古文編」は、古文、および、我が国の言語文化を題材にした近代以降の作品を取り上げた。
- ・「漢文編」は、漢文、および、日本漢文を取り上げた。
- ・教材の選定にあたっては、生徒の発達段階や中学校の国語科との接続にも配慮して、高校生として知っておくべき評価の定まった作品から厳選することを旨とした。
- ・各単元の扉に、該当単元の教材で何を学ぶかを「学習のねらい」として示し、教材の意図を学習者全体で共有しながら学びに取り組むことができるようとした。  
→「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る」ための配慮。

#### ②[知識及び技能]への対応

- ・「言葉の手引き」（現代文・古文）や和歌の修辞に関する「古文を読むために」（古文）を設定したり、「注意すべき語句」（現代文）・「重要古語」（古文）・「基本句形」（漢文）を抽出したりして、「B 読むこと」の内容と関連づけながら、漢字・語句・表現技法・文法等の知識を深めるとともに、文脈の中で語感を磨き、語彙を豊かにできるようにした。
- ・古文では「古文を読むために」、漢文では「漢文を読むために」を設定して、「B 読むこと」の内容と関連づけながら、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを系統的に学習できるようにした。また、「作品解説」やコラム「古典のしるべ」を設け、我が国の言語文化の特質や外国の文化との関係、作品の歴史的・文化的背景などについて、理解を深めることができるようとした。
- ・現代文では作品ごとに「作者解説」を付し、出典の情報を示して読書につながる興味づけを図った。また、小説に関しては「文学のしるべ」を設け、読書の幅を広げることができるよう意図した。
- ・巻頭特集「古典の世界と現代とを比べる」「つながる言語文化」、巻末に資料編、巻末図録・地図を用意し、豊富な資料や写真・図版を掲載して、知識をより深めるための一助とした。

#### ③[思考力、判断力、表現力等]への対応

- ・「A 書くこと」に関しては、言語活動を主体として教材を設定し、具体的な活動を通して表現力や想像力を高め、自分の考えを広げて伝え合う能力を育成することを目指した。
- ・「B 読むこと」に関しては、脚注の「問」、および「学習の手引き」「言語活動の手引き」の三つの課題設定によって、作品の内容理解を深め、興味を広げができるようにした。
  - \* 「問」は、本文を解釈するうえでポイントとなる箇所に、内容理解を確認する目的で示した。
  - \* 「学習の手引き」は、文章全体の構成や展開の把握と、「学習のねらい」に沿った内容の解釈との、基本的に二つの事柄を行うことを主旨として設定した。
  - \* 「言語活動の手引き」は、本文を学習して得た知識や、本文に関連する事柄などをもとにして、文章を書いて発表したり、調査・報告を行ったりするなど、「読むこと」と「書くこと」の両方に関わる言語活動を行うことを主旨として設定した。活動に取り組むうえで導入や別文章・別資料が必要となるものについては、別ページに独立させて、教材「言語活動」として設定した。

## 2. 対照表

図書の構成・内容			学習指導要領の内容					該当箇所	配当時数			
			知識及び技能		思考力・表現力・判断力等				書くこと (1)	書くこと (2)	読むこと (1)	読むこと (2)
編	単元	教材	(1)	(2)								
現代文編	随想を読む	・本と出会う(若松英輔) ・わたしの好きな季語(川上弘美)	イ・ウ	力			ア・イ・ウ・オ	イ	p.14～p.18		2	2
	小説を読む(一)	・とんかつ(三浦哲郎) 〔作者解説〕三浦哲郎	イ・ウ・エ				ア・イ・ウ	イ	p.26～p.38		2	2
		〔文学のしるべ〕ことばで召し上がる——食べ物と文学		ア・カ					p.39			
		・よろこびの歌(宮下奈都) 〔作者解説〕宮下奈都	イ・ウ				ア・イ	イ	p.40～p.51		2	2
		〔文学のしるべ〕物語の場所としての「学校」		ア・カ					p.52			
	詩の楽しみ	・道程(高村光太郎) ・小景異情(室生犀星)	オ	ア			イ・ウ	イ	p.54～p.66	4	4	
		・I was born(吉野弘)										
		・二十億光年の孤独(谷川俊太郎)							p.88			
		〔作者解説〕高村光太郎・室生犀星・吉野弘・谷川俊太郎										
	小説を読む(二)	・羅生門(芥川龍之介) 〔作者解説〕芥川龍之介	イ・ウ				ア・イ	イ	p.68～p.83		2	2
		〔言語活動〕読み比べる・今昔物語集	ウ	イ・カ			ア・イ・ウ・エ	ウ	p.84～p.87		1	1
		〔文学のしるべ〕芥川龍之介の王朝物と歴史小説		ア・カ								
古文編	短歌と俳句	・ゆびさきの温みを—短歌— ・細胞の全部が私—俳句—	オ	ア			ア・イ	イ	p.90～p.93		2	2
		〔言語活動〕折句を用いて短歌を作る	オ	ア			ア・イ	イ	p.94～p.97		2	2
		・夢十夜(夏目漱石) 〔作者解説〕夏目漱石	イ・ウ	カ			ア・イ・ウ	イ・ウ	p.100～p.109		2	2
		〔文学のしるべ〕夢の中で自分の知らない自分に出会う		ア・カ					p.110			
	小説を読む(三)	・鏡(村上春樹) 〔作者解説〕村上春樹	イ・ウ				ア・イ・ウ	イ	p.111～p.123		2	2
		〔文学のしるべ〕世界文学の中のハルキ・ムラカミ					ア・カ		p.124			
		・古文の学習 ・兎のそら寝	ア	ア			オ		p.126～p.127		0.5	0.5
		〔作品解説〕宇治拾遺物語	ウ	イ・ウ・エ			ア・イ	イ	p.128～p.130		0.5	0.5
古文編	古文に親しむ	・古文を読むために1 ・三文にて歎ニツ 〔作品解説〕沙石集	ウ	イ・ウ			ウ		p.131～p.133			
		・古文を読むために2 〔古典のしるべ〕平仮名の誕生					ア・イ	イ	p.134～p.135		1	1
		〔言語活動〕くずし字を読んでみよう					ウ		p.136～p.137			
		・なよ竹のかぐや姫 〔作品解説〕竹取物語	ウ	イ・ウ			ア・イ	イ	p.138～p.139			
		〔言語活動〕古典から受け継がれる話の由来を調べる	ア	ア・カ			エ・オ		p.140		1	1
		・絵師良秀 ・古文を読むために3	ウ・エ	イ・ウ			ア・イ	イ	p.142～p.145		1	1
	随筆を読む	・徒然草 〔作品解説〕徒然草	ウ・エ	イ・ウ			ウ		p.146～p.147			
		〔古典のしるべ〕隨筆文学					ア・イ	イ	p.148～p.149		1	1
		・枕草子 〔作品解説〕枕草子	ウ	イ・ウ・エ	ア・イ	ア	ア・イ	イ・ウ	p.150～p.152		1	1
		〔古典のしるべ〕後宮の文学サロン ・古文を読むために4					ウ		p.162～p.168		2	2
漢文編	歌物語を読む	・伊勢物語 〔作品解説〕伊勢物語	ウ	イ・ウ			ア・イ・エ	イ・ウ	p.166～p.172		2	2
		〔言語活動〕描かれた『伊勢物語』を調べる	ウ	ア			エ	ア・オ	p.174～p.181			
		・古文を読むために5	ウ	ウ			ア・イ	イ	p.182～p.183		1	1
		・平家物語 〔言語活動〕読み比べる・宇治川の先陣	ア・ウ	カ	イ		ア・イ・ウ・エ	ウ・エ	p.185～p.186			
		〔作品解説〕平家物語					イ・オ		p.188～p.197		1	1
	軍記物語を読む	・唐詩の世界 〔古典のしるべ〕和歌の伝統と継承	ア	ア・イ・カ			エ・オ	オ	p.200			
		・古文を読むために6	ア	ウ			エ・オ	オ	p.198～p.199		1	1
		・万葉・古今・新古今 〔作品解説〕万葉集・古今和歌集・新古今和歌集	ウ・オ	ア・イ・ウ			ア・イ	イ	p.201～p.202			
		〔古典のしるべ〕和歌の伝統と継承	ア・オ	ア・イ					p.204～p.208		1	1
		・古文を読むために7 ・短歌を詠す(俵万智)	オ	ウ			ア・イ	イ	p.209			
和歌の鑑賞	日記・紀行文を読む	・古文を読むために8	ア・ウ	ア	イ		ア・イ・エ	エ	p.210～p.211		1	1
		・土佐日記 〔作品解説〕土佐日記	ウ	イ・ウ			ア・イ	イ	p.212～p.216		1	1
		・奥の細道 〔作品解説〕奥の細道	ウ・オ	イ・ウ			ア・イ・エ	イ・ウ	p.218～p.221		1	1
		・土佐日記 〔作品解説〕奥の細道					ア・イ・エ	イ・ウ	p.222～p.228		2	2
漢文編	漢文入門	・漢文の学習 ・訓読に親しむ(一)	ア	ア			オ		p.230～p.231		0.5	0.5
		・漢文を読むために1 ・訓読に親しむ(二)	ウ	ウ			イ		p.232		0.5	0.5
		・漢文を読むために2 ・訓読に親しむ(三)		ウ			ウ		p.233			
		・漢文を読むために3	ウ	ウ			イ		p.234		1	1
		・矛盾 ・漢文を読むために4					ウ		p.235			
		・五十歩百歩 ・漢文を読むために5	ウ	ウ			イ		p.236		1	1
	故事成語	・蛇足 〔言語活動〕故事成語の由来と意味を調べる	ウ	ア・ウ・エ			ア・イ	イ	p.237～p.238			
		・矛盾 ・漢文を読むために4	ウ	ア・エ・カ	イ		エ・オ	エ	p.240～p.241		1	1
		・五十歩百歩 ・漢文を読むために5	ウ	ア・ウ・エ			ア・イ	イ	p.242～p.243			
		・蛇足 〔言語活動〕読み比べる・漢詩と訳詩	ウ	ア・ウ・エ			ア・イ	イ	p.244～p.245		1	1
漢文編	史伝を読む	・唐詩の世界 ・日本の漢詩 ・漢詩のきまり	オ	ア・ウ			イ・ウ	イ	p.246～p.247		1	1
		〔言語活動〕読み比べる・漢詩と訳詩	オ	ア・ウ			イ・ウ	イ	p.248～p.249		1	1
		・鶴口牛後 ・完璧	ウ	イ・ウ			ア・エ・カ	エ	p.250～p.252		1	1
		・先従魄始 ・漢文を読むために6	ウ	イ・ウ・エ			エ	ア	p.264		1	1
中国の思想	中国の思想	・論語 〔作品解説〕論語	ア	イ・ウ			ア・イ	イ	p.266～p.267		1	1
		〔言語活動〕孔子のエピソードを調べる		イ・カ			ア・イ・エ	イ	p.268～p.269		1	1
		〔古典のしるべ〕孔子の生きた時代		イ			ア・イ・エ	イ	p.270～p.271		1	1
		・漢文を読むために7		ウ					p.272			
		・論語 〔作品解説〕論語					ア・イ	イ	p.274～p.280		3	3
		〔言語活動〕孔子のエピソードを調べる					エ	イ	p.281～p.284		1	1
		〔古典のしるべ〕孔子の生きた時代					ウ		p.285			
		・漢文を読むために7					ウ		p.286			
		計					計		6	64	70	

## 常用漢字以外の使用漢字一覧表

音訓一覽表



音訓一覽表



音訓一覽表

播磨國	太安万侣	正宗和万	葛西万	早稻田	有島武	篠路実	武者小路	宅作	戲だ	但つし	且つし	蓋以	所道	直道	毀道	誰百	協濟	格ニ	格ニ	道く	与夫	作也	有已	有也	夫已	諸夫	鮮也	温也	順也	古也	事也	ふる	視せ	雪ぐ	卑く	懷き	遣め	卞和	易んこと	漢字								
はりまのくに	おおのやすまる	まさむね	かずおのやすまる	ありしまたけお	かさいだ	わせだ	ありしまたけお	あつやのこうじさね	かげさく	ただしき	かつしき	ゆゑん	ちよくだう	たれ	そし	やすし	くだら	じよく	いたる	ととのふる	みちびく	かみちびく	なう	なう	か	なう	それ	すくな	たづね	したがふ	いはんや	したがふる	いにしへ	つかふる	ひくくし	いだき	しめ	すぐ	すすぐ	ひへんこと	音訓							
294	294	292	290	290	290	290	290	290	290	290	288	286	285	283	283	283	281	280	280	278	278	278	277	277	276	276	276	276	275	275	271	271	271	270	270	270	270	269	269	268	ページ							
尚ほるむ	見る令	見る帥	令胡	何若	胡双	何双	路	詧吾	沈明	呂句	遷	梅児	本居宣長	四谷	摘可	出有	服部	冊水	增親	沙橘	十六石	保成	貞季	顕夜	讃岐集	赤壁	狭衣	落窪	將順	慶景	嗣舍人	舍人	漢字															
なほるるに	しむるに	ひきふるに	いかんをか	なにをか	ならびの	いづれの	て	ならびの	なみちて	かがれの	わがれの	みちがれの	かがれの	いづれの	うつ	うつ	うつ	うつ	あるべし	いざも	はつとり	ぞう	ぞう	み	み	ます	ます	ちか	ちか	あき	あき	ほう	ほう	じよう	じよう	さごろも	さごろも	おちくぼ	おちくぼ	まさ	まさ	したごう	したごう	ぎよう	ぎよう	とねり	とねり	音訓
313	312	312	311	311	311	310	310	310	310	297	297	297	296	296	295	295	295	295	295	295	295	295	295	295	295	295	295	295	294	294	294	294	294	294	294	294	294	294	ページ									
																																		所謂	所且越徒	徒だ	漢字											
																																					いはゆる	ただ	ただ	音訓								
																																					316	316	315	313	ページ							

# 出典一覧表

[国語教材]

申請図書			出典					備考
ページ	名 称	種別	名 称	ペー ジ	著作者等	発行者	発行年次等	
14~17	本と出会う	国語教材	本を読みなくなった人のための読書論 (初版第2刷)	112~118	若松英輔	亜紀書房	2019年	
19~23	私の好きな季語	国語教材	私の好きな季語 (第1刷)	8~9、124~125	川上弘美	NHK出版	2020年	
26~36	とんかつ	国語教材	完本 短篇集モザイク (初版)	32~39	三浦哲郎	新潮社	2010年	
40~49	よろこびの歌	国語教材	よろこびの歌 (初版第8刷)	24~41	宮下奈都	実業之日本社	2019年	
54	道程	国語教材	高村光太郎全集 第一巻 (初版)	253	高村光太郎	筑摩書房	1957年	
56	小景異情	国語教材	室生犀星全集 第一巻 (第2刷)	25~26	室生犀星	新潮社	1965年	
58~60	I was born	国語教材	現代詩文庫12 吉野弘 (第22刷)	29~30	吉野弘	思潮社	1990年	
62~63	二十億光年の孤独	国語教材	谷川俊太郎詩集 (第11刷)	106~107	谷川俊太郎	思潮社	1979年	
68~81	羅生門	国語教材	芥川龍之介全集 第一巻 (第2刷)	127~136	芥川龍之介	岩波書店	1977年	
84~87	今昔物語集	国語教材	新日本古典文学大系37 (初版)	335~336	作者未詳	岩波書店	1996年	
90	清水へ・夏のかぜ	国語教材	定本 与謝野晶子全集 第一巻 (第1刷)	5、162	与謝野晶子	講談社	1979年	
90~91	はたらけど・不來方の	国語教材	石川啄木全集 第一巻 (初版第2刷)	19、27	石川啄木	筑摩書房	1978年	
91	白鳥は・幾山河	国語教材	若山牧水全集 第一巻 (初版)	41、68	若山牧水	雄鶴社	1958年	
91	死に近き・あかあかと	国語教材	斎藤茂吉全集 第一巻 (初版)	97、216	斎藤茂吉	岩波書店	1973年	
92	たちまちに・生き行くは	国語教材	定本 近藤芳美歌集 (第2刷)	39、101	近藤芳美	短歌新聞社	1979年	
92	夏蝶の・わがカヌー	国語教材	寺山修司全歌集 (初版)	224、176	寺山修司	沖積舎	1982年	
92~93	思い出の・「寒いね」と	国語教材	サラダ記念日 傑万智歌集 (19版)	12、18	傑万智	河出書房新社	1987年	
93	ゆびさきの・水が生まれるまでの	国語教材	青卵 (第1刷)	44、212	東直子	筑摩書房	2019年	
94	手毬唄	国語教材	定本 高浜虚子全集 第二巻 (初版)	76	高浜虚子	毎日新聞社	1973年	
94	遠山に	国語教材	定本 高浜虚子全集 第一巻 (初版)	16	高浜虚子	毎日新聞社	1974年	
94	分け入つても・うしろすがたの	国語教材	山頭火全集 第一巻 (第1刷)	4、18	種田山頭火	春陽堂書店	1986年	
95	吊橋や・滝落ちて	国語教材	水原秋桜子全集 第三巻 (第1刷)	201、408	水原秋桜子	講談社	1977年	
95	雪はげし・乳母車	国語教材	橋本多佳子全集 第一巻 (第2刷)	130、166	橋本多佳子	立風書房	1990年	
95	万緑の・校塔に	国語教材	中村草田男全集 1 (初版)	126、56	中村草田男	みすず書房	1989年	
96	鰯雲・隠岐やいま	国語教材	加藤楸邨全集 第一巻 (第1刷)	123、331	加藤楸邨	講談社	1981年	
96	湾曲し・冬眠の	国語教材	金子兜太集 第一巻 (初版第1刷)	111、369	金子兜太	筑摩書房	2002年	
96	細胞の・眠れない	国語教材	句集 すみれそよぐ (初版)	11、161	神野紗希	朔出版	2020年	
100~107	夢十夜	国語教材	漱石全集 第八巻 (初版)	32~35、48~50	夏目漱石	岩波書店	1966年	
111~121	鏡	国語教材	村上春樹全作品1979~1989⑤ 短篇集II (第1刷)	73~79	村上春樹	講談社	1991年	
128~129	児のそら寝	国語教材	新日本古典文学大系42 (第4刷)	24~25	編者未詳	岩波書店	1994年	
134~135	三文にて歯二つ	国語教材	新編日本古典文学全集52 (初版)	427~428	無住道暁	小学館	2001年	
142~144	なよ竹のかぐや姫	国語教材	新日本古典文学大系17 (初版)	3~4	作者未詳	岩波書店	1997年	

申請図書			出典						備考
ページ	名 称	種別	名 称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等		
148～149	絵仏師良秀	国語教材	新日本古典文学大系42（第4刷）	82～83	編者未詳	岩波書店	1994年		
154～159	徒然草	国語教材	角川ソフィア文庫（第22版）	14、59～60、111、 23～24	兼好法師	KADOKAWA	2019年		
162～167	枕草子	国語教材	新日本古典文学大系25（第2刷）	3～4、152、 194～195、136～137	清少納言	岩波書店	1993年		
174～181	伊勢物語	国語教材	新日本古典文学大系17（初版）	87～90、104～106	作者未詳	岩波書店	1997年		
188～191	平家物語	国語教材	新日本古典文学大系45（初版）	122～123	作者未詳	岩波書店	1993年		
192～193	中山義秀訳 平家物語	国語教材	現代語訳平家物語（中）（初版）	309～311	中山義秀	河出書房新社	2004年		
193～195	古川日出男訳 平家物語	国語教材	池澤夏樹=個人編集 日本文学全集09	535～538	古川日出男	河出書房新社	2016年		
204	春の苑	国語教材	新編日本古典文学全集9（初版）	295	大伴家持	小学館	1996年		
204	袖ひちて	国語教材	新編日本古典文学全集11（初版）	31	紀貫之	小学館	1994年		
204	ほのぼのと	国語教材	新編日本古典文学全集43（初版）	23	後鳥羽院	小学館	1995年		
205	み熊野の	国語教材	新編日本古典文学全集6（初版）	281	柿本人麻呂	小学館	1994年		
205	暮るるかと	国語教材	新編日本古典文学全集11（初版）	84	壬生忠岑	小学館	1994年		
205	橋の	国語教材	新編日本古典文学全集43（初版）	87	藤原俊成女	小学館	1995年		
206	夕月夜	国語教材	新編日本古典文学全集7（初版）	339	湯原王	小学館	1995年		
206	秋来ぬと	国語教材	新編日本古典文学全集11（初版）	89	藤原敏行	小学館	1994年		
206	見渡せば	国語教材	新編日本古典文学全集43（初版）	117	藤原定家	小学館	1995年		
206	沫雪の	国語教材	新編日本古典文学全集7（初版）	371	大伴旅人	小学館	1995年		
207	雪降れば	国語教材	新編日本古典文学全集11（初版）	145	紀友則	小学館	1994年		
207	かつ凍り	国語教材	新編日本古典文学全集43（初版）	187	藤原俊成	小学館	1995年		
212～216	古典の和歌を現代の言葉で書き換える	国語教材	言葉の虫めがね（初版）	78～86	俵万智	角川書店	1999年		
218～219	土佐日記	国語教材	新日本古典文学大系24（初版）	3	紀貫之	岩波書店	1989年		
222～225	奥の細道	国語教材	日本古典文学大系46（第9刷）	70～71、84～85	松尾芭蕉	岩波書店	1962年		
240	矛盾	国語教材	韓非子（漢文大系本）（初版）	第8巻	韓非	富山房	1988年		
244	五十歩百歩	国語教材	孟子（十三経注疏本）（初版）	第1冊	孟軻	新文富出版	1981年		
248～249	蛇足	国語教材	戦国策（初版）	上巻 355～356	劉向	上海古籍出版社	1978年		
254	春暁	国語教材	孟浩然集（四部叢刊本）（初版）	第33冊 31	孟浩然	商務印書館	1979年		
255	静夜思	国語教材	李太白集（四部叢刊本）（初版）	第32冊 127	李白	商務印書館	1979年		
256	送元二使安西	国語教材	王右丞集（四部叢刊本）（初版）	第33冊 40	王維	商務印書館	1979年		
257	春望	国語教材	杜工部集（四部叢刊本）（初版）	第32冊 67	杜甫	商務印書館	1979年		
258	香炉峰下新卜山居草堂初成偶題東壁	国語教材	白氏文集（四部叢刊本）（初版）	第36冊	白居易	商務印書館	1979年		
260	読家書	国語教材	日本古典文学大系72（第3刷）	506	菅原道真	岩波書店	1969年		
260～261	桂林莊雜詠、示諸生	国語教材	遠思樓詩鈔（淡窓全集 中巻）（初版）	11	広瀬淡窓	日田郡教育会	1926年		
261	道情	国語教材	逍遙遺稿（正編・外編）（初版）	165	中野逍遙	創風社出版	2012年		
264	春暁・静夜思	国語教材	鶯の卵（初版）	5108	土岐善磨	筑摩書房	1985年		
264	春暁・静夜思	国語教材	井伏鱒二全集 第28巻（初版）	36、43	井伏鱒二	筑摩書房	1999年		

申請図書			出典						備考
ページ	名 称	種別	名 称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等		
266～267	鶴口牛後	国語教材	十八史略（漢文大系本）（第9刷）	第5巻 68	曾先之	富山房	1990年		
268～269	完璧	国語教材	十八史略（漢文大系本）（第3刷）	第5巻 69～70	曾先之	富山房	1978年		
270～271	先従隗始	国語教材	十八史略（漢文大系本）（第9刷）	第5巻 85～86	曾先之	富山房	1990年		
274	子曰、「学而時習之。…」	国語教材	論語（十三経注疏）（第4刷）	下巻 1	孔子	中華書局出版	1987年		
274	子曰、「学而不思、…」	国語教材	論語（十三経注疏）（第4刷）	下巻 6	孔子	中華書局出版	1987年		
275	子曰、「吾十有五而志于学。…」	国語教材	論語（十三経注疏）（第4刷）	下巻 5	孔子	中華書局出版	1987年		
275	子曰、「温故而知新、…」	国語教材	論語（十三経注疏）（第4刷）	下巻 6	孔子	中華書局出版	1987年		
275	子曰、「古之学者為己、…」	国語教材	論語（十三経注疏）（第4刷）	下巻 56	孔子	中華書局出版	1987年		
276	子曰、「巧言令色、鮮矣仁。」	国語教材	論語（十三経注疏）（第4刷）	下巻 1	孔子	中華書局出版	1987年		
276	子貢曰、…	国語教材	論語（十三経注疏）（第4刷）	下巻 62	孔子	中華書局出版	1987年		
276～277	有子曰、…	国語教材	論語（十三経注疏）（第4刷）	下巻 1	孔子	中華書局出版	1987年		
277	子貢問曰、…	国語教材	論語（十三経注疏）（第4刷）	下巻 23	孔子	中華書局出版	1987年		
278	子曰、「道之以政、…」	国語教材	論語（十三経注疏）（第4刷）	下巻 5	孔子	中華書局出版	1987年		
278	子貢問政。…	国語教材	論語（十三経注疏）（第4刷）	下巻 47	孔子	中華書局出版	1987年		
281～284	若者への応援歌	国語教材	NHK「100分de名著」ブックス 孔子 論語（第13刷）	5、14～16、34～37	佐久協	NHK出版	2021年		

※上記のもの以外については、編集委員による書き下ろしである。

[図・地図]

申請図書			出典						備考
ページ	名 称	種別	名 称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等		
155	石清水八幡宮	図	都名所図会	卷五	竹原信繁		1786年	左の出典をもとに作製	

※上記のもの以外については、自社で作製。

# 出典一覧表

[写真]

申請図書		出典					備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		
見返③	春(桜)	写真					素材辞典:Vol.146 No.40	
見返③	夏(平泉 高館からの北上川の眺め 8月)	写真					PIXTA:80924731	
見返③	秋(竹林と月)	写真					素材辞典:Vol.146 No.130	
見返③	冬(廬山 五老峰・香炉峰・漢陽峰雪)	写真					CPC:JBD-553	
見返⑥	万里の長城	写真					ゲッティイメージズ:670221190	
見返⑥	黄河	写真					時事通信フォト:029819646	
見返⑥	長江(江南地方)	写真					アプロ:240504087	
見返⑥	黄鹤楼	写真					アプロ:21163081	
見返⑥	陽闇跡	写真					アプロ:7342638	
13	関口芭蕉庵の池	写真					時事通信フォト:11911778	
16	齋	写真					アーティストリー:25800191	
18	若松英輔	写真					若松英輔	
20	牛祭	写真					朝日新聞社:P160520002505	
20	東コート	写真					フォトオリジナル:4519329	
24	川上弘美	写真					朝日新聞社:P170808000889	
25	(指揮棒)	写真					ゲッティイメージズ:75651184-170667a	
36	永平寺	写真					時事通信フォト:0007503254	
38	三浦哲郎	写真					時事通信フォト:915323	
38	葛西善蔵	写真					日本近代文学館:P0000888	
38	太宰治	写真					日本近代文学館:P0002246	
39	『小僧の神様』	写真	『小僧の神様 他十篇』	表紙	志賀直哉	岩波書店	2002年	自社で撮影
39	『あつあつを召し上がる』	写真	『あつあつを召し上がる』	表紙	小川糸	新潮社	2014年	自社で撮影
39	『魯肉飯のさえずり』	写真	『魯肉飯のさえずり』	表紙	温又柔	中央公論新社	2023年	自社で撮影
51	宮下奈都	写真					朝日新聞社:P110216009500	
51	映画『羊と鋼の森』	写真					TOHOマークティング	
52	『風の又三郎』	写真	『新編 風の又三郎』	表紙	宮沢賢治	新潮社	1989年	自社で撮影
52	『桐島、部活やめるってよ』	写真	『桐島、部活やめるってよ』	表紙	朝井リョウ	集英社	2012年	自社で撮影
52	『一瞬の風になれ』	写真	『一瞬の風になれ』	表紙	佐藤多佳子	講談社	2009年	自社で撮影
53	銀河団SMACS0723	写真					NASA	
59	蛭崎	写真					東城幸治	
65	高村光太郎	写真					時事通信フォト:918747	
65	室生犀星	写真					日本近代文学館:P0002941	
66	吉野弘	写真					吉野弘	
66	谷川俊太郎	写真					共同通信社:2022042011016	
67	『羅生門』執筆当時の芥川龍之介	写真					日本近代文学館:P0000063b	
69	羅城門の復元模型	写真					京都文化博物館	
69	市女笠	写真	模本『釈迦堂縁起絵巻』	卷五			東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ	
69	揉鳥帽子	写真	春日権現驗記絵巻(模本)				ColBase	
70	鰐尾	写真					ユニフォトプレス:NNP0036A08753	
72	築土	写真					歴史公園えさし藤原の郷	
72	火桶	写真	模本『春日権現靈験記』	卷十六			東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ	
74	やもり	写真					アーティストリー:T-16861	
81	『羅生門』初版本表紙	写真	『羅生門』	表紙	芥川龍之介		1917年	日本近代文学館:P0003501
83	芥川龍之介	写真						日本近代文学館:P000082
88	『戯作三昧』	写真	『戯作三昧・一塊の土』	表紙	芥川龍之介	新潮社	1968年	自社で撮影
88	『奉教人の死』	写真	『奉教人の死』	表紙	芥川龍之介	新潮社	1968年	自社で撮影
88	『三度目の恋』	写真	『三度目の恋』	表紙	川上弘美	中央公論新社	2023年	自社で撮影
89	祇園・円山公園の桜(1910年ごろ)	写真					ユニフォトプレス:25.MM41AT	
90	与謝野晶子	写真					アーティストリー: P20110905dd1dd1phj628000	
90	石川啄木	写真					日本近代文学館:P000313	
91	不來方の城跡	写真					フォトオリジナル:2004047	
91	若山牧水	写真					日本近代文学館:P0003139	

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
91	斎藤茂吉	写真						日本近代文学館:P0001534
92	近藤芳美	写真						ユニフォトプレス:KDO2006062100239
92	寺山修司	写真						ユニフォトプレス:KDO2009072700170
93	俵万智	写真						朝日新聞社:P211217000651
93	東直子	写真						東直子
94	(手毬)	写真						素材辞典:00019252
94	高浜虚子	写真						日本近代文学館:P0003442
94	種田山頭火	写真						日本近代文学館:P0002143
95	水原秋桜子	写真						ユニフォトプレス:KDO2008022600069
95	橋本多佳子	写真						共同通信社:2011060900608
95	中村草田男	写真						ユニフォトプレス:KDO2009052500169
96	加藤楸邨	写真						ユニフォトプレス:KDO2009070900109
96	金子兜太	写真						朝日新聞社:P110216009446
97	(鱗雲)	写真						PIXTA:1561661
97	(桜)	写真						PIXTA:75045599
97	神野紗希	写真						共同通信社:2020040301831
99	人力車を引く車夫(1880年ごろ)	写真						アプロ:21619272
104	護国寺の山門	写真						アプロ:21037474
105	仁王像	写真	東大寺南大門金剛力士像					公益財団法人美術院
109	夏目漱石	写真						日本近代文学館:P0002499
109	『吾輩は猫である』挿絵	写真						日本近代文学館:P0008058
110	『冥土』	写真	『冥土・旅順入場式』	表紙	内田百閒	岩波書店	1990年	自社で撮影
110	『笑う月』	写真	『笑う月』	表紙	安部公房	新潮社	1984年	自社で撮影
110	『夢違』	写真	『夢違』	表紙	恩田陸	KADOKAWA	2014年	自社で撮影
123	村上春樹	写真						アプロ:1757515
124	『象の消滅』	写真	『象の消滅』	表紙	村上春樹	新潮社	2005年	自社で撮影
124	『星条旗の聞こえない部屋』	写真	『星条旗の聞こえない部屋』	表紙	リービ英雄	講談社	2004年	自社で撮影
124	『歓灯使』	写真	『歓灯使』	表紙	多和田葉子	講談社	2017年	自社で撮影
125	延暦寺(根本中堂)	写真						PIXTA:27057614
126	小倉百人一首競技かるた全国大会の様子	写真						朝日新聞社:P161105001175
127	源氏物語(『新源氏物語 上』)	写真	『新源氏物語 上』	表紙	田辺聖子	新潮社	1984年	自社で撮影
127	源氏物語(『新源氏物語 中』)	写真	『新源氏物語 中』	表紙	田辺聖子	新潮社	1984年	自社で撮影
127	源氏物語(『新源氏物語 下』)	写真	『新源氏物語 下』	表紙	田辺聖子	新潮社	1984年	自社で撮影
127	源氏物語(『源氏物語 上』)	写真	『源氏物語 上』	表紙	角田光代	河出書房新社	2017年	自社で撮影
127	源氏物語(『源氏物語 中』)	写真	『源氏物語 中』	表紙	角田光代	河出書房新社	2018年	自社で撮影
127	源氏物語(『源氏物語 下』)	写真	『源氏物語 下』	表紙	角田光代	河出書房新社	2020年	自社で撮影
129	僧と児	写真	『石山寺縁起絵巻』		高階隆兼等			自社で撮影
130	『宇治拾遺物語』冒頭	写真	『宇治拾遺物語』					宮内庁書陵部
130	雀、報恩の事	写真	『宇治拾遺物語絵巻』					陽明文庫
130	百鬼夜行	写真	『百鬼夜行絵巻』					国際日本文化研究センター
138	『万葉集』(一六四三年刊)	写真	『万葉集』刊本				1643年	国立公文書館
138	『万葉集』(一六四三年刊)	写真	『万葉集』刊本				1643年	国立公文書館
139	元永本『古今和歌集』	写真	元永本『古今和歌集』					CoIbase
139	『新訂童子便』(一八七六年刊)	写真	『新訂童子便』		尾崎富五郎	錦誠堂	1874年	国立国会図書館
140	(割りばしの外袋の写真)	写真						長井紙業㈱
140	「児のそら寝」の冒頭と末尾(冒頭)	写真	『宇治拾遺物語』					国文学研究資料館
140	「児のそら寝」の冒頭と末尾(末尾)	写真	『宇治拾遺物語』					国文学研究資料館
140	(くずし字写真・うなぎ)	写真						ゲッティイメージズ:1495098631
140	(くずし字写真・おそば)	写真						アプロ:20822922
140	(くずし字写真・せんべい)	写真						サインネットフォト:BAA110003667
141	(竹)	写真						PIXTA:54985458
142	翁、女児を家へ連れて帰る	写真	『竹取翁并かぐや姫絵巻物』					宮内庁書陵部
143	翁と嫗、女児を育てる	写真	『竹取物語絵巻』					国立国会図書館
145	『竹取物語絵巻』	写真	『竹取物語』					国立国会図書館
145	『竹取物語』	写真	『竹取物語』	星新一	角川書店	2008年		自社で撮影

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
145	『竹取物語』	写真	『竹取物語／伊勢物語／堤中納言物語／土左日記／更級日記』		森見登美彦／川上弘美／中島京子／堀江敏幸／江國香織	河出書房新社	2016年	自社で撮影
145	『対訳竹取物語』	写真	『対訳竹取物語』		川端康成／ドナルド・キーン／宮田雅之	講談社	1997年	自社で撮影
146	月探査機「かぐや」と子衛星「おきな」「おうな」	写真						JAXA:P-044-13121
146	奈良絵本『竹取物語』	写真	奈良絵本『竹取物語』					龍谷大学図書館:竹取物語021-578-3
147	版本『籠に成竹取物語』	写真	版本『籠に成竹取物語』					国立国会図書館
149	「不動明王二童子像」	写真	不動明王二童子像					青蓮院門跡
149	「不動明王像(良秀様)」	写真	不動明王像(良秀様)					醍醐寺
153	兼好法師	写真	『徒然草絵巻』					サントリー美術館
153	清少納言	写真	清少納言図		土佐光起			ColBase
156	高名の木登り	写真	『徒然草画帖』		住吉具慶			東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ
157	高名の木登り	写真	『徒然草画帖』		住吉具慶			東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ
157	蹴鞠	写真						アプロ:15504836
158	神無月のころ	写真	奈良絵本『徒然草』					名古屋市蓬左文庫
160	兼好法師	写真	兼好法師像		伝 狩野探幽			神奈川県立金沢文庫
162	(春は、あけぼの)	写真						PIXTA:2857659
162	火桶	写真	模本『春日権現盡験記』	卷十六				東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ
163	螢	写真						フォトオリジナル:3025206
163	雁	写真						アーティファクトリー:02100009p
164	尼そぎ	写真	模本『扇面古写経』					東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ
165	雛遊び	写真	『源氏物語絵色紙帖』	紅葉賀				京都国立博物館 特-11932-7
165	蓮	写真						PIXTA:22971946
165	葵	写真						PIXTA:34279534
166	扇	写真						嚴島神社
168	清少納言	写真	清少納言	上村松園				北野美術館
173	八橋かきつばた園(愛知県知立市)	写真						アプロ:10542554
174	奈良絵本『伊勢物語』	写真	奈良絵本『伊勢物語』					国文学研究資料館
175	「業平東下り図」	写真	「業平東下り図」		尾形光琳			五島美術館
176	鳴	写真						素材辞典:Vol96 No.99
176	都鳥	写真						PIXTA:48034163
178	「筒井筒」	写真	「筒井筒」	小林古径				東京藝術大学美術館
179	「伊勢物語図 河内越」	写真	「伊勢物語図 河内越」	尾形光琳				MOA美術館
180	河内の女	写真	模本『伊勢物語絵巻』					東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ
182	重要文化財『伊勢物語絵巻』	写真	『伊勢物語絵巻』					和泉市久保惣記念美術館
182	『燕子花図屏風』	写真	『燕子花図屏風』		尾形光琳			根津美術館
183	「伊勢物語御歌かるた」	写真	『伊勢物語御歌かるた』		尾形光琳			同志社大学
183	「伊勢物語御歌かるた」	写真	『伊勢物語御歌かるた』		尾形光琳			同志社大学
183	「業平東下り蒔絵象嵌櫛」	写真						ColBase
183	「見立伊勢物語」	写真	「見立伊勢物語」		鈴木春信			ColBase
183	嵯峨本『伊勢物語』	写真	嵯峨本『伊勢物語』					国文学研究資料館
184	「伊勢物語」冒頭	写真	『伊勢物語』					国立公文書館
184	奈良絵本『伊勢物語』第一段(上)	写真	奈良絵本『伊勢物語』	第一段				国文学研究資料館
184	仮名草子『仁勢物語』第一段(下)	写真	仮名草子『仁勢物語』	第一段				国文学研究資料館
187	宇治川先陣の碑(京都府宇治市)	写真						PIXTA:96500907
187	琵琶法師	写真	模本『職人尽歌合』					東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ
189	(馬具をつけた馬)	写真						馬の博物館

申請図書		出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	
190	宇治川の先陣	写真	奈良絵本『平家物語』	卷九			明星大学
191	(大鎧姿(前面))	写真					全教図
191	(大鎧姿(後面))	写真					全教図
191	(兵庫鎖の太刀)	写真					ColBase
196	俱利伽羅の戦い	写真	奈良絵本『平家物語絵巻』	卷七			明星大学
196	屋島の戦い	写真	奈良絵本『平家物語絵巻』	卷十一			明星大学
196	宇治平等院の戦い	写真	奈良絵本『平家物語』	卷四			明星大学
196	壇の浦の戦い	写真	『源平合戦図屏風』・『壇浦合戦』				ColBase
197	源頼朝	写真	「源頼朝木像」				甲斐 善光寺
197	源義経	写真	「源義経画像」				中尊寺
197	平清盛	写真	「平清盛公坐像」				六波羅蜜寺
198	最期を語る頼政	写真					公益社団法人能楽協会
199	平等院	写真	『都名所図会』				国文学研究資料館
199	扇の芝	写真					共同通信社:2023122208152
200	『平家物語』冒頭	写真	『平家物語』				国文学研究資料館
203	三十六歌仙図	写真	『三十六歌仙図』	鈴木其一			出光美術館
204	桃	写真					PIXTA:21944037
205	浜木綿	写真					PIXTA:49176155
205	橋	写真					PIXTA:98021418
207	白梅	写真					PIXTA:9566528
208	大伴家持	写真	『上巻本三十六歌仙絵』				藤田美術館
208	紀貫之	写真	『上巻本三十六歌仙絵』				五島美術館
208	後鳥羽院	写真	『新三十六歌仙図帖』				ColBase
214	(雨に濡れる山桜)	写真					PIXTA:54985458
216	『伊勢物語絵巻』	写真	『伊勢物語絵巻』	住吉如慶			ColBase
216	俵万智	写真					朝日新聞社:P211217000651
217	平泉(岩手県)	写真					アプロ:20164254
218	平安時代の船旅	写真	『北野天神縁起絵巻』承久本				北野天満宮
220	櫛標	写真					PIXTA:33880483
220	平安時代の船	写真	「貨客両用船模型」				広島県立歴史博物館
221	紀貫之の邸宅跡	写真					アプロ:147495597
221	為家筆本『土左日記』(冒頭)	写真	『土左日記』	藤原為家			大阪青山歴史文学博物館
221	『明月記』一九四年(建久五)十二月六日・七日条	写真	『明月記』	藤原定家			ColBase
223	矢立て	写真					世田谷区立郷土資料館
224	卯の花	写真					PIXTA:2215280
225	金色堂	写真					中尊寺
226	「奥の細道行脚之図」	写真	「奥の細道行脚之図」	森川許六			天理大学附属天理図書館
227	白河の関	写真					PIXTA:25219929
227	立石寺	写真					サインネットフォト:YHI110008277
227	栗の花	写真					PIXTA:7420279
227	紅粉の花(紅花)	写真					PIXTA:14492772
227	ねぶ(合歓)	写真					PIXTA:30290391
227	萩	写真					PIXTA:54245324
228	松尾芭蕉	写真	松尾芭蕉	小川破笠			公益財団法人芭蕉翁顕彰会蔵
228	『曾良旅日記』五月十三日条	写真	『曾良旅日記』	河合曾良			天理大学附属天理図書館蔵
239	『戦国策正解』	写真	『戦国策正解』	卷四上 横田惟孝	松山堂	1829年	東京大学東洋文化研究所
241	『中国古代寓言』より	写真	『中国古代寓言』第一輯(一)「自相矛盾」		少年児童出版社	1980年	自社で撮影
241	『中国古代寓言』より	写真	『中国古代寓言』第一輯(一)「自相矛盾」		少年児童出版社	1980年	自社で撮影
241	『中国古代寓言』より	写真	『中国古代寓言』第一輯(一)「自相矛盾」		少年児童出版社	1980年	自社で撮影
248	卮	写真					サインネットフォト:ABM111174510
253	牀上唐人水滴	写真	牀上唐人水滴				ColBase
254	(春曉 イメージ画像)	写真	西安・唐大慈恩寺遺址公園				アーティファクトリー:YS001k
255	(山上に昇る月)	写真	重慶市奉節・満月				山口直樹
256	渭水河畔	写真					アーティファクトリー:YS-83340

申請図書		出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	
257	長安城跡	写真					サイネットフォト:AKG110000040
258	廬山	写真					サイネットフォト:IMC110000006
265	馬踏飛燕	写真					アーテファクトリー:CPC41
268	璧	写真					アプロ:236184882
273	『論語疏』	写真	『論語疏』	卷六			慶應義塾図書館
279	「孔子講学図」	写真					CPC:JB-119
280	孔子	写真	「孔子、顔回、曾参三聖像」				ユニフォトプレス:P02CC00163
280	湯島聖堂大成殿	写真					アプロ:179353582
289	島崎藤村『破戒』初版挿絵	写真	『破戒』		島崎藤村	緑蔭叢書	1906年 日本近代文学館
289	幸田露伴と尾崎紅葉	写真					日本近代文学館:P0000786
291	「兵士と死」	写真	"Soldat und Tod"		Hans Larwin		1917年 ユニフォトプレス:uniH_25.2E1KTKF
293	全共闘運動	写真					共同通信社:2003071600248
293	『文豪ストレイドッグス』(1巻)	写真	『文豪ストレイドッグス』(1)	表紙	KADOKAWA		2013年 KADOKAWA
293	『文豪ストレイドッグス』(10巻)	写真	『文豪ストレイドッグス』(10)	表紙	KADOKAWA		2016年 KADOKAWA
318	東三条殿復元模型	写真					国立歴史民俗博物館:H-420
318	夏の暑い日、釣殿で涼む光源氏と公達	写真					風俗博物館
319	清涼殿復元模型	写真					京都文化財団
319	新年を迎えた光源氏と紫の上	写真					風俗博物館
319	牛車	写真					弘前市立弘前図書館
320	やまぶき	写真					PIXTA:7237089
320	やなぎ	写真					PIXTA:41546483
320	ふじ	写真					PIXTA:30648760
320	さくら	写真					PIXTA:7356228
320	うめ	写真					PIXTA:61466369
320	つばくらめ	写真					PIXTA:45667096
320	うぐいす	写真					PIXTA:58310882
320	せり	写真					PIXTA:50354286
320	なづな	写真					PIXTA:2484232
320	ごぎょう	写真					PIXTA:16660954
320	はこべら	写真					PIXTA:38695518
320	ほとけのざ	写真					PIXTA:35930454
320	すずな	写真					PIXTA:6871225
320	すずしろ	写真					PIXTA:53644098
320	うのはな	写真					PIXTA:2215280
320	すえつむはな	写真					PIXTA:14492772
320	あおい	写真					PIXTA:34279534
320	ほととぎす	写真					PIXTA:58441328
320	ほたる	写真					PIXTA:41452242
320	かきつばた	写真					PIXTA:2501577
320	しょうぶ	写真					PIXTA:5015774
320	はちす	写真					PIXTA:30880459
320	たちばな	写真					PIXTA:98021418
321	さざんか	写真					PIXTA:27430791
321	すいせん	写真					PIXTA:28673727
321	みやこどり	写真					PIXTA:48034163
321	ちどり	写真					PIXTA:60926833
321	おし	写真					PIXTA:38652557
321	まき	写真					PIXTA:405982
321	かつら	写真					PIXTA:18296014
321	はぎ	写真					PIXTA:12384448
321	おばな	写真					PIXTA:59447930
321	くず	写真					PIXTA:43924075
321	なでしこ	写真					PIXTA:16043086
321	おみなえし	写真					PIXTA:42510207
321	ふじばかま	写真					PIXTA:12807279
321	あさがお	写真					PIXTA:54932511
321	かり・かりがね	写真					PIXTA:50393816
321	かり・かりがね(空を飛ぶ様子)	写真					PIXTA:54036763

申請図書		出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	
321	しのぶ・しのぶぐさ	写真					PIXTA:62231677
321	しおん	写真					PIXTA:50737039
321	きく	写真					PIXTA:60269619
321	きりぎりす	写真					PIXTA:39825264
321	まつむし	写真					PIXTA:12097225
321	ひぐらし	写真					PIXTA:23874784
321	あさじ	写真					PIXTA:50687496
321	もみじ	写真					PIXTA:5764219
324	歌合	写真	天徳四年内裏歌合復元図				京都文化博物館
324	管弦の遊び	写真	春秋行楽図		冷泉為恭筆		MOA美術館
324	双六盤(上)	写真					ColBase
324	貝合(下)	写真					ColBase
324	縫合	写真	『源氏物語団扇画帖』				国文学研究資料館
324	蹴鞠	写真	『源氏物語団扇画帖』				ColBase
325	葡萄色の小桂・紅梅裏の匂いの桂	写真					風俗博物館
325	浅縞の小桂・紅の薄様裏の桂	写真					風俗博物館
326	武官の束帯姿	写真					全教図
326	文官の束帯姿	写真					全教図
326	直衣	写真					全教図
326	狩衣	写真					風俗博物館
326	褐衣	写真					風俗博物館
327	女房装束(前)	写真	『有職故実』	第二巻			全教図
327	女房装束(後)	写真	『有職故実』	第二巻			全教図
327	壺装束	写真					風俗博物館
327	桂	写真					全教図
328	出産	写真	『北野天神縁起絵巻』				北野天満宮
328	五十日の祝い	写真	『紫式部日記絵詞』				五島美術館
328	初冠	写真	『聖德太子絵伝』				ColBase
328	露顕	写真	『源氏物語絵巻』(宿木二)				徳川美術館/DNPアートコミュニケーションズ
328	五十の賀	写真	『北野天神縁起絵巻』				北野天満宮
328	野辺送り	写真	『北野天神縁起絵巻』				北野天満宮
330	矛	写真					CPC:JB-251b
330	戟	写真					CPC:JB-232
330	戦国時代の兵士	写真					CPC:JBD-890
330	弩	写真					CPC:JB-237
330	盾	写真					CPC:JB-240
330	剣	写真					Colbase
330	鼎	写真					Colbase
331	皇帝の礼装	写真	「隋の文帝」	伝 間立本			ユニフォトプレス:00023661
331	宮女の服装	写真	「簪花仕女図」	伝 周昉			CPC:PT-13211
331	文官の服装	写真	唐・章懷太子墓壁画「迎賓図」				時事通信社:047375090
331	璧	写真					アフロ:236184882
331	環	写真					CPC:K1C000977N000000000PAC
331	玦	写真					ユニフォトプレス:3.5950982
331	琴	写真					サイネットフォト:ABM110486352
331	琵琶	写真					Colbase
331	瑟	写真					アーテファクトリー:CPC KJ-46
331	筑	写真					CPC:JB-1045

(備考) 4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。

(2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、  
補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること（別途契約を締結する場合を除く）。

備考4の内容について確認しました。

原典に加除訂正を加えた箇所と加除訂正の理由

單元名	ページ・行	本文	原典	訂正理由
随想を読む	p 14・2 p 15・3 p 21・1	そうした人は少なくないどころか、 <一行空きを削除> 時節に、	そうした人は、少なくないどころか、  今ごろに、	・わかりやすくするため。以下、読点を削除した箇所については同様。 ・学習上の配慮による。 ・発表時と今とで状況が異なるため。
小説を読む (一)	p 28・8  p 41・上 16  p 41・下 7 p 41・下 7 p 46・上 16 p 47・上 1 p 48・上 4 p 48・下 16	音源  パソコン CD やめてもよかったです。 初冬のマラソン大会だった。 先生だったらしい。 ただ、どこかで	<原文では、会話文のあとは一字下げで始まっているが、一字下げをやめ、普通の形に改めた> MD  デッキ MD <このあと原文削除> <このあと原文削除> 明泉の先生だったらしい。 ただ、いつか	・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。以下、会話文のあとの始め方については同様。 ・実業之日本社ジュニア文庫『よろこびの歌』所収の本文に従って改めた。 ・同上。 ・同上。 ・教育的配慮による。 ・採録スペースの関係による。 ・教育的配慮による。 ・教科書として適切な表現にするため。
詩の楽しみ	p 60・7 p 62・3	つめたい光の粒々だったね。 欲しがったりする	淋しい 光りの粒々だったね。 欲しがったりする	・原典の「註」に従って改めた。 ・現代仮名遣いに統一するため。以下、表記については同様。
小説を読む (二)	p 68・4 p 68・5  p 70・15  p 80・11	<ルビ> すぐおおじ 二、三人  待っていた。」  襟髪	すじやくおおぢ 二三人  待つてみた」  襟上	・現在の一般的な読み方に改めた。 ・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。以下、原典にない読点については同様。 ・教科書として適切な表記に改めた。 以下、原典にない句点については同様。 ・現在の一般的な表記に改めた。
古文入門	p 128・1 p 128・2 p 135・2 p 135・3	今は昔、 かいもちひ <改行> 心には利分とこそ をこがましきわざなり。	是も今は昔、 かひもちい <改行なし> 心には利分とこそ <このあと原文削除>	・一編だけの採録であるので、わかりやすくするため。 ・教育的配慮による。以下、仮名遣いについては同様。 ・わかりやすくするため。以下、原典にない改行については同様。 ・説話としての採録であるので、わかりやすくするため。
古文に親しむ	p 142・4 p 143・2 p 148・1 p 149・2	<改行なし> その竹の中に、 妻の嫗 絵仏師良秀といふありけり。 あしく描きけるなり。	<改行> その竹の中に、 妻の女 絵仏師良秀と云ありける。 あしく描ける也。	・文章の流れを中断しないため。以下、文を続けた箇所については同様。 ・諸本により校訂。 ・教科書として、文法的破格を避けるため。以下、文末については同様。 ・これより前(p 148・9)の表現に準じて訂正した。
隨筆を読む	p 156・4 p 163・2 p 163・4 p 164・4 p 164・10 p 164・11	飛び降るとも降りなん。 はた言ふべきにあらず。 言ふべきにもあらず。 大人などに見せたる、 <ルビ>ひひな みなうつくし。	飛び降るとも降りなん。 いとあはれなり。 いふべきにあらず。 大人ごとにみせたる、 <ルビ>ひいな <このあと原文削除>	・正徹本により校訂。 ・諸本により校訂。 ・同上。 ・同上。 ・同上。 ・採録スペースの関係による。
歌物語を読む	p 178・9 p 180・2	筒井筒 心にくくも	筒井つの 心にくくも	・諸本により校訂。 ・同上。
軍記物語を読む	p 188・8 p 189・12	川 見えさうぞ。	河 見えさうは、	・章段名の表記に統一した。以下、「川」については同様。 ・諸本により校訂。
和歌の鑑賞	p 204・1  p 214・上 9 p 214・下 9～ 下 10 p 215・上 10 p 216・上 4	眺曠して作る歌  センスに任せらしかない。 『ふる』は『経る』と『降る』、… …『降る』と『長雨』は縁語。 『伊勢物語』を、中学生ぐらいを 対象にして現代語訳する また、	眺曠して作る歌二首  <このあと原文削除> 『ふる』は「経る」と「降る」、… …「降る」と「長雨」は縁語。 『伊勢物語』を、中学生ぐらいを 対象にして現代語訳する <このあと原文削除>	・一首だけの採録なので削除した。以下、「『万葉集』の詞書については同様。 ・採録スペースの関係による。 ・原典の不一致を正し、一般的な区切り符号の使い方に従った。 ・「を」が重複するのを避けるために改めた。 ・採録スペースの関係による。

單元名	ページ・行	本文	原典	訂正理由
故事成語	p 240・6 p 240・7 p 244・9	盾 堅、物莫 惠王曰	楯 堅、莫 曰	・「楯」は手すりの意で、誤りであるため。以下、「盾」についても同様。 ・通行本によって改めた。 ・抜粋であるので、学習者に理解しやすくするため。
漢詩の鑑賞	p 256・2 p 256・3 p 258・10	渙 新 何	襄 春 可	・通行本によって改めた。 ・通行本によって改めた。 ・通行本によって改めた。
史伝を読む	p 268・3 p 268・5	趙惠文王 藺相如曰、	惠文 藺相如	・抜粋であるので、学習者に理解しやすくするため。 ・『史記』によって改めた。
中国の思想	p 281～284 p 281・上 7 p 281・上 11～12 p 282・上 9～10 p 282・上 11～12 p 282・下 2 p 282・下 12 p 282・下 17～18 p 283・上 6～10 p 283・上 14 p 283・下 9 p 284・上 3～4 p 284・下 1～3 p 284・下 8 p 284・下 9～10	〈小見出しを削除〉 “語錄”です。 杖なんかをついた“仙人”的な老人ではないでしょうか? その夢がかなったのは五十歳を過ぎてからのことです。 やってやろうじゃないか サエない人生を送ったことになります。 確かにそうです。 自らの経験を、後進を後押しするのに生かしました。 「吾の人に於けるや、……所以なり。（吾之於人也、誰毀誰譽。……其有所試矣。……直道而行也。）」（衛靈公） 伸びていくもんだよ。) 『論語』というのは、どちらかというと 気になるでしょう。（改行なし） でも、 いつか「わかった！」となるときがくる。……「あ、やっぱり違うかな」と思い始める。 逆に自分自身の成長がわかるのです。 大きな魅力の一つなんです。	〈このあと原文削除〉 杖なんかをついた“仙人”的な老人——、ではないでしょうか? その夢がかなったのはようやく五十歳を過ぎてからのことです。 やったろうじゃないか 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 自らの経験を後進を後押しするのに生かしました。 「吾の人に於けるや、……所以なり」（吾之於人也、誰毀誰譽、……其有所試矣、……直道而行也、衛靈公第十五一二五） 伸びていくもんだよ) 『論語』というのは、のちの回でも話しますが、どちらかというと 気になるでしょう。（改行）でも、 いつか「分かった！」って時がくる。……「あ、やっぱり違うかな」って思いはじめる。 逆に自分自身の成長が分かったりするのです。 〈このあと原文削除〉	・学習上の配慮による。 ・採録スペースの関係による。 ・教科書として読みやすく、より適切な表現に改めた。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・教科書としてより適切な表現に改めた。 ・煩雑さを避けるため。 ・採録スペースの関係による。 ・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため読点を追加した。 ・原文と書き下し文とで句読点をそろえたり、かつこを付け替えたりすることで二つを対照しやすくした。また、煩雑さを避けるため、出典の編名の下にある番号を削除した。以下、これらの修正については同様。 ・書き下し文と原文にそろえて句点を追加した。以下、この修正については同様。 ・部分採録のため、後項を受ける表現を削除した。 ・文章の流れを中断しないため。 ・教科書としてより適切な表現に改めた。 ・教科書としてより適切な表現に改めた。 ・採録スペースの関係による。

# ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

申 請 図 書			学習上の参考に供する情報			備 考
番号	ページ	種別	参照先	U R L	概要	
1	2	二次元コード		自社ページU R L	コンテンツリスト	別紙1添付
	2	URL		自社ページU R L	コンテンツリスト	別紙1添付
	表4	二次元コード		自社ページU R L	コンテンツリスト	別紙1添付
2	14	二次元コード		自社ページU R L	本と出会う 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙2添付
				自社ページU R L	本と出会う 語彙力ドリル 語句の意味	別紙3添付
3	19	二次元コード		自社ページU R L	わたしの好きな季語 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙4添付
				自社ページU R L	わたしの好きな季語 語彙力ドリル 語句の意味	別紙5添付
4	26	二次元コード		自社ページU R L	とんかつ 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙6添付
				自社ページU R L	とんかつ 語彙力ドリル 語句の意味	別紙7添付
5	38	二次元コード	青森県立図書館・青森県近代文学館	<a href="https://wwwplib.pref.aomori.lg.jp/bungakukan/">https://wwwplib.pref.aomori.lg.jp/bungakukan/</a>	参考リンク 青森県近代文学館	
6	40	二次元コード		自社ページU R L	よろこびの歌 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙8添付
				自社ページU R L	よろこびの歌 語彙力ドリル 語句の意味	別紙9添付
7	53	二次元コード		自社ページU R L	詩教材 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙10添付
				自社ページU R L	詩教材 語彙力ドリル 語句の意味	別紙11添付
8	65	二次元コード	室生犀星記念館	<a href="https://www.kanazawa-museum.jp/saisei/">https://www.kanazawa-museum.jp/saisei/</a>	参考リンク 室生犀星記念館	
9	68	二次元コード		自社ページU R L	羅生門 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙12添付
				自社ページU R L	羅生門 語彙力ドリル 語句の意味	別紙13添付
10	87	二次元コード		自社ページU R L	『今昔物語集』「太刀帯の陣に魚を売る姫の話」口語訳	別紙14添付
11	90	二次元コード		自社ページU R L	短歌教材 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙15添付
				自社ページU R L	短歌教材 語彙力ドリル 語句の意味	別紙16添付
12	94	二次元コード		自社ページU R L	俳句教材 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙17添付
				自社ページU R L	俳句教材 語彙力ドリル 語句の意味	別紙18添付
13	100	二次元コード		自社ページU R L	夢十夜 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙19添付
				自社ページU R L	夢十夜 語彙力ドリル 語句の意味	別紙20添付
14	109	二次元コード	漱石山房記念館	<a href="https://soseki-museum.jp/">https://soseki-museum.jp/</a>	参考リンク 新宿区立漱石山房記念館	
15	111	二次元コード		自社ページU R L	鏡 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙21添付
				自社ページU R L	鏡 語彙力ドリル 語句の意味	別紙22添付

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
16	128	二次元コード		自社ページURL	児のそら寝（宇治拾遺物語） 重要古語の確認	別紙23添付
17	134	二次元コード		自社ページURL	三文にて歯二つ（沙石集） 重要古語の確認	別紙24添付
18	140	二次元コード		自社ページURL	くずし字字体表	別紙25添付
		Apache License 2.0		<a href="https://apache.org/licenses/LICENSE-2.0">https://apache.org/licenses/LICENSE-2.0</a>	参考リンク1 NINJAL変体仮名フォント ライセンス表記	
		人文学オープンデータ共同利用センター		<a href="http://codh.rois.ac.jp/miwo/">http://codh.rois.ac.jp/miwo/</a>	参考リンク2 みを(miwo) AIくずし字認識アプリ	
		人文学オープンデータ共同利用センター		<a href="https://lab.nijl.ac.jp/kuzusu/">https://lab.nijl.ac.jp/kuzusu/</a>	参考リンク3 くずし字、いろいろ。	
19	142	二次元コード		自社ページURL	なよ竹のかぐや姫（竹取物語） 重要古語の確認	別紙26添付
20	148	二次元コード		自社ページURL	絵仏師良秀（宇治拾遺物語） 重要古語の確認	別紙27添付
21	154	二次元コード		自社ページURL	『徒然草』つれづれなるままに 重要古語の確認	別紙28添付
				自社ページURL	『徒然草』仁和寺にある法師 重要古語の確認	別紙29添付
22	156	二次元コード		自社ページURL	『徒然草』高名の木登り 重要古語の確認	別紙30添付
23	158	二次元コード		自社ページURL	『徒然草』神無月のころ 重要古語の確認	別紙31添付
24	162	二次元コード		自社ページURL	『枕草子』春は、あけぼの 重要古語の確認	別紙32添付
25	164	二次元コード		自社ページURL	『枕草子』うつくしきもの 重要古語の確認	別紙33添付
26	166	二次元コード		自社ページURL	『枕草子』中納言参りたまひて 重要古語の確認	別紙34添付
27	174	二次元コード		自社ページURL	『伊勢物語』東下り 重要古語の確認	別紙35添付
28	177	二次元コード		自社ページURL	『伊勢物語』第三段	別紙36添付
				自社ページURL	『伊勢物語』第四段	別紙37添付
				自社ページURL	『伊勢物語』第五段	別紙38添付
				自社ページURL	『伊勢物語』第六段	別紙39添付
				自社ページURL	『伊勢物語』第七段	別紙40添付
				自社ページURL	『伊勢物語』第八段	別紙41添付
29	178	二次元コード		自社ページURL	『伊勢物語』筒井筒 重要古語の確認	別紙42添付
30	187	二次元コード		自社ページURL	動画（平曲演奏「祇園精舎」）	別紙43添付
31	188	二次元コード		自社ページURL	『平家物語』宇治川の先陣 重要古語の確認	別紙44添付
				自社ページURL	動画（平曲演奏「祇園精舎」）	別紙45添付
32	204	二次元コード		自社ページURL	「万葉・古今・新古今」 重要古語の確認	別紙46添付
33	212	二次元コード		自社ページURL	短歌を訳す 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙47添付
				自社ページURL	短歌を訳す 語彙力ドリル 語句の意味	別紙48添付

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
34	218	二次元コード		自社ページURL	『土佐日記』門出 重要古語の確認	別紙49添付
35	222	二次元コード		自社ページURL	『奥の細道』旅立ち 重要古語の確認	別紙50添付
36	224	二次元コード		自社ページURL	『奥の細道』平泉 重要古語の確認	別紙51添付
37	225	二次元コード	平泉町世界遺産推進室	<a href="https://www.town.hiraizumi.iwate.jp/heritage/index.html">https://www.town.hiraizumi.iwate.jp/heritage/index.html</a>	参考リンク：藤原秀衡・源義経	
38	232	二次元コード		自社ページURL	訓読に親しむ（一）読み順確認問題	別紙52添付
				自社ページURL	漢文を読むために1 読み順確認問題	別紙53添付
39	234	二次元コード		自社ページURL	訓読に親しむ（二）読み順確認問題	別紙54添付
				自社ページURL	漢文を読むために2 読み順確認問題	別紙55添付
40	236	二次元コード		自社ページURL	訓読に親しむ（三）読み順確認問題	別紙56添付
				自社ページURL	漢文を読むために3 読み順確認問題	別紙57添付
41	240	二次元コード		自社ページURL	「矛盾」 基本句形の確認	別紙58添付
42	244	二次元コード		自社ページURL	「五十歩百歩」 基本句形の確認	別紙59添付
43	248	二次元コード		自社ページURL	「蛇足」 基本句形の確認	別紙60添付
44	252	二次元コード	青空文庫	<a href="https://www.aozora.gr.jp/">https://www.aozora.gr.jp/</a>	参考リンク1 青空文庫	
			少納言	<a href="https://shonagon.ninjal.ac.jp/">https://shonagon.ninjal.ac.jp/</a>	参考リンク2 少納言	
			NINJAL-LWP	<a href="https://tsukubawebcorpus.jp/">https://tsukubawebcorpus.jp/</a>	参考リンク3 NINJAL-LWP for TWC	
45	254	二次元コード		自社ページURL	「唐詩の世界」 基本句形の確認	別紙61添付
				自社ページURL	「唐詩の世界」 押韻確認問題	別紙62添付
46	260	二次元コード		自社ページURL	「日本の漢詩」 基本句形の確認	別紙63添付
				自社ページURL	「日本の漢詩」 押韻確認問題	別紙64添付
			太宰府天満宮	<a href="https://www.dazaifutenmangu.or.jp/about/sugawarano_michizanekou">https://www.dazaifutenmangu.or.jp/about/sugawarano_michizanekou</a>	参考リンク 菅原道真と太宰府	
			廣瀬資料館	<a href="http://hirose-museum.jp/">http://hirose-museum.jp/</a>	参考リンク 広瀬淡窓	
			宇和島市	<a href="https://www.city.uwajima.ehime.jp/site/sizen-bunka/108nakano.html">https://www.city.uwajima.ehime.jp/site/sizen-bunka/108nakano.html</a>	参考リンク 中野逍遙	
47	266	二次元コード		自社ページURL	「鶴口牛後」 基本句形の確認	別紙65添付
48	267	二次元コード		自社ページURL	参考資料 合從連衡 解説・模式図	別紙66添付
49	268	二次元コード		自社ページURL	「完璧」 基本句形の確認	別紙67添付
50	269	二次元コード		自社ページURL	『史記』「廉頗藺相如列伝 漢池の会」書き下し文・口語訳	別紙68添付
51	270	二次元コード		自社ページURL	「先徒隗始」 基本句形の確認	別紙69添付
52	274	二次元コード		自社ページURL	『論語』〈学び〉 基本句形の確認	別紙70添付

申 請 図 書			学習上の参考に供する情報			備 考
番号	ページ	種別	参照先	U R L	概要	
				自社ページU R L	『論語』〈仁〉 基本句形の確認	別紙71添付
				自社ページU R L	『論語』〈政治〉 基本句形の確認	別紙72添付
53	284	二次元コード		自社ページU R L	孔子年譜	別紙73添付
				自社ページU R L	孔子のエピソード 書き下し文・口語訳	別紙74添付
54	287	二次元コード		自社ページU R L	常用漢字表	別紙75添付
55	320(3)	二次元コード	サントリーホールディングス	<a href="https://www.suntory.co.jp/eco/birds/encyclopedia/">https://www.suntory.co.jp/eco/birds/encyclopedia/</a>	参考リンク 日本の鳥百科	
				自社ページU R L	動画（虫の鳴き声）	別紙76添付
56	324(7)	二次元コード		自社ページU R L	動画（雅楽に使用する楽器）	別紙77添付
57	326(9)	二次元コード	風俗博物館	<a href="https://costume.iz2.or.jp/">https://costume.iz2.or.jp/</a>	参考リンク 日本服飾史	
58	334(17)	二次元コード	京都市平安京創生館	<a href="https://www.arc.ritsumei.ac.jp/archive01/theater/html/heian/">https://www.arc.ritsumei.ac.jp/archive01/theater/html/heian/</a>	参考リンク 平安京オーバレイマップ	

社名入る 教科書ウェブ  
**106-253 (書名入る)**

106-253 (書名入る) 著作権について

 現代文編

 古文編

 漢文編

 資料編

 巻末図録・地図

1問 / 6問

解答

- めつたにない
- めつたにない
- 所在ない
- たわいない

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。  
白色動物の誕生はまれだ。

1問 / 6問

次の表現の意味を答えよう。  
態度  
〈例文〉 彼はその問題に對して反対の態度を示した。

解答を見る

1問 / 6問

次の表現の意味を答えよう。  
評論  
〈例文〉 新聞に新刊の評論が掲載されていた。

解答を見る

1問 / 6問

解答

- 仕方ない
- 心ない
- 思いがけない

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。  
ひよんなことから事実を知った。

別紙 6

## 1問 / 5問

解答

- 非情な
- 不名誉な
- 予想外の

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。  
案に相違した結果だ。

## 1問 / 7問

次の表現の意味を答えよう。

景勝地

〈例文〉

日本中に知られた景勝地だ。

解答を見る

別紙 7

別紙 8

## 1問 / 5問

解答

- やはり
- 自然に
- 不思議と

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。  
おのずと頭が下がる。

## 1問 / 8問

次の表現の意味を答えよう。

迂闊

〈例文〉

迂闊にもの名前を書くのを忘れていた。

解答を見る

別紙 9

## 1問 / 5問

解答

- 気迫  気質  気性

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。  
気魄がこもった作品だ。

## 1問 / 8問

次の表現の意味を答えよう。  
道程

〈例文〉 長い道程を経て、目的地に到着した。

解答を見る

## 1問 / 6問

次の表現の意味を答えよう。  
洗いざらし

〈例文〉 洗いざらしのシャツで、僕は旅立った。

解答を見る

## 1問 / 5問

解答

- 低回する  襟微する  興隆する

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。  
若者のいない街はさびれる。



## 大刀帶の陣に魚を売る媼の語

### 【原文】

今は昔、<sup>1</sup>三条の院の天皇の春宮にておはしましける時に、<sup>2</sup>大刀帶の陣に常に来て、魚売る女ありけり。大刀帶どもこれを買はせて食ふに、味はひのうまかりければ、これを<sup>3</sup>役ともてなして、<sup>4</sup>菜料に好みけり。干したる魚の切れ切れなるにてなむありける。

しかる間、八月ばかりに、大刀帶ども<sup>4</sup>小鷹狩りに<sup>5</sup>北野に出でて遊びけるに、この魚売りの女出で來たり。大刀帶ども、女の顔を見知りたれば、「こやつは野には何わざするにあらむ。」と思ひて、馳せ寄りて見れば、女、大きやかなる<sup>6</sup>籠を持ちたり。また、<sup>7</sup>楚一筋を捧げて持ちたり。この女、大刀帶どもを見て、あやしく<sup>8</sup>逃げ目を使ひて、ただ騒ぎに騒ぐ。大刀帶の従者ども寄りて、「女の持ちたる籠には何の入りたるぞ。」と見むとすに、女惜しんで見せぬを、あやしがりて引き奪ひて見れば、蛇を四<sup>9</sup>寸ばかりに切りつつ入れたり。あさましく思ひて、「これは何の料ぞ。」と問へども、女、さらに答ふることなくて、<sup>10</sup>「 」て立てり。早う、こやつのしけるやうは、楚をもて<sup>11</sup>藪をおどろかしつつ、這ひ出づる蛇を打ち殺して切りつつ、家に持ててきて、塩を付けて干して売りけるなりけり。大刀帶ども、それを知らずして、買はせて役と食ひけるなりけり。

これを思ふに、「蛇は<sup>11</sup>食ひつる人あし。」と言ふに、など蛇の毒せぬ。しかれば、その体たしかになくて切れ切れならむ魚壳らむをば、<sup>12</sup>広量に買ひて食はむことはどどむべしとなむ、これを聞く人言ひあつかひけるとなむ、語り伝へたるとや。

<sup>1</sup> 三条の院の天皇 三条天皇（九七六—一〇一七、在位一〇一一—一〇一六）。「春宮」

は皇太子のこと。三条天皇が皇太子であった時期は、九八六—一〇一一年の間。

<sup>2</sup> 大刀帶の陣 皇太子の警護にあたる武官たちの詰所。

<sup>3</sup> 役ともてなして もっぱら重宝して。

<sup>4</sup> 小鷹狩り 秋に小型の鷹を用いて小鳥を捕まえる狩り。

<sup>5</sup> 北野 現在の京都市上京区北野。平安京大内裏の北に広がる野で、遊獵の地として知られる。

<sup>6</sup> 籠 底が方形、上部が円形のざる。

<sup>7</sup> 細い木の枝。鞭とする説もある。

<sup>8</sup> 逃げ目を使ひて 逃げる機会をうかがう目つきをして。

9寸 長さの単位。一寸は約三センチメートル。

10 「 」 諸本この部分を欠いて伝わらない。「あきれ」などが入るだろうと考えられている。

11 食ひつる人あし 食べた人の体に悪い。

12 広量に 不注意に。

#### 【口語訳】

今となつては昔の話、三条天皇が皇太子でいらっしゃったときに、大刀帶の詰め所にいつも来て、魚を売る女がいた。大刀帶たちがこれを（従者に）買わせて食べてみると、味がよかつたので、これをもっぱら重宝して、おかげとして好んでいた。（それは）干した魚のぶつぶつに切られたものであった。

そのうち、八月ごろに、大刀帶たちが小鷹狩りに北野へ出かけて遊んでいたところ、この魚売りの女が現れた。大刀帶たちは、女の顔を見知っていたので、「こいつは野で何をしているのだろうか。」と思って、駆け寄つて見ると、女は、大きなざるを持つていた。また、小枝を一本掲げ持つていた。この女は、大刀帶たちを見て、奇妙にも逃げる機会をうかがう目つきをして、ひどく慌てる。大刀帶の従者たちが寄つて行つて、「女が持つているざるには何が入っているのか。」と見ようとするが、女はいやがつて見せないのを、怪しいと思つて引つぱつて奪つて見ると、蛇を四寸ほどに切つて入れてあつた。驚いて、「これは何に使うのか。」と問いただすけれども、女は、一向に答えることなく、「ぼつぜん呆然」と立つていた。なんと実は、こいつのしていたことは、小枝で藪を（つついて）驚かしては、這い出る蛇を打ち殺して切つては、家に持ち帰つて、塩をつけて干して売つていたのであつた。大刀帶たちは、それを知らずに、買わせてもっぱら食べていたのであつた。

これを思つと、「蛇は（それを）食べた人の体に悪い。」と言つたが、どうして蛇の毒にあたらなかつたのだろうか。こんなこともあるから、全体の姿がはつきりしなくて切り身になつてゐるような魚を売つてゐるのを、不注意に買って食べるようなことはやめたほうがよいと、この話を聞く人々は言い合つたと、語り伝えたとかいうことである。

1問 / 5問

解答

- なくなる  
 講じる  
 こねあげる

傍線部の語句の言い換えとして『最適なもの』を選ぼう。  
 万策が尽きはてる。

1問 / 6問

解答を見る

よがむ  
 〈例文〉 脳裏にふと不安がよぎった。

1問 / 3問

解答

- 伸び  
 曲がり  
 二分し

傍線部の語句の言い換えとして『最適なもの』を選ぼう。  
 道が湾曲している。

1問 / 7問

解答を見る

しぐれる  
 〈例文〉 外出するとしぐれていた。

## 1問 / 5問

[解答](#)

- 邪魔  滑稽  懸念

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。  
大きなビルが建つて目障りだ。

## 1問 / 8問

次の表現の意味を答えよう。  
輪郭  
〈例文〉 顔の輪郭は祖父に似ている。

[解答を見る](#)

## 1問 / 5問

[解答](#)

- 未来  架空  現実

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。  
三次元の世界に生きる。

## 1問 / 7問

次の表現の意味を答えよう。  
クロスする  
〈例文〉 運命のいたずらで二人の人生がクロスした。

[解答を見る](#)

1問 / 3問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
おどろく

1問 / 5問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。  
定む

くすし字字体表

※本資料は、Apache 2.0ライセンス (<https://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>) で配布されている、NINJAL 変体仮名フォント (<https://cid.ninjal.ac.jp/kana/font/>) を利用しています。

1問 / 5問

次の古語の意味を答えよう。  
うつくし

解答を見る

1問 / 7問

次の古語の意味を答えよう。  
さながら

解答を見る

1問 / 4問

次の古語の意味を答えよう。  
つれづれなり

解答を見る

1問 / 7問

次の古語の意味を答えよう。  
心憂し

解答を見る

1問 / 4問

次の古語の意味を答えよ。  
捷つ

解答を見る

1問 / 6問

次の古語の意味を答えよ。  
心細し

解答を見る

1問 / 7問

次の古語の意味を答えよ。  
さひひなう

解答を見る

1問 / 5問

次の古語の意味を答えよ。  
うつくし

解答を見る

1問 / 7問

次の古語の意味を答えよう。  
いみじ

[解答を見る](#)

1問 / 7問

次の古語の意味を答えよう。  
おもしろし

[解答を見る](#)

り。

昔、男ありけり。懸想じける女のもとに、ひじき藻といふものをやるとて、  
思ひあらば葦の宿に寝もしなむひじきものには袖をしつつも  
二条の後の、まだ帝にもつかうまつりたまはで、ただ人にておはしましけるときのことな

ひじき藻も

## 伊勢物語・第三段



昔、東ひがしの五条に、大后おほきさいの宮おはしましける、西さいの対たいに住む人ありけり。それを、本意ほんいにはあらで、心ざし深かりける人、行きとぶらひけるを、睦月むづきの十日ばかりのほどに、ほかに隠れにけり。あり所は聞けど、人の行き通ふべき所にもあらざりければ、なほ憂うしと思ひつなむありける。またの年の睦月に、梅の花盛りに、去年こぞを恋ひて行きて、立ちて見、ゐて見、見れど、去年に似るべくもあらず。うち泣きて、あはらなる板敷きに、月の傾かたぶくまで臥ふせりて、去年を思ひ出でてよめる。

月やあらぬ春や昔の春ならぬわが身ひとつはもとの身にしてとよみて、夜のほのぼのと明くるに、泣く泣く帰りにけり。



## 伊勢物語・第四段

月やあらぬ



## 伊勢物語・第五段



## 通ひ路の関守

昔、男ありけり。東の五条わたりに、いと忍びて行きけり。みそかなる所なれば、門よりもえ入らで、童べの踏みあけたる築地のくづれより通ひけり。人しげくもあらねど、たび重なりければ、あるじ聞きつけて、その通ひ路に、夜ごとに人を据ゑて守らせければ、行けどもえあはで帰りけり。さてよめる。

人知れぬわが通ひ路の関守は宵々ごとにうちも寝ななむ

とよめりければ、いといたう心やみけり。あるじ許してけり。

二条の後に忍びて参りけるを、世の聞こえありければ、せうとたちの守らせ給ひけるとぞ。

## 伊勢物語・第六段

芥川



昔、男ありけり。女のえ得まじかりけるを、年を経てよばひわたりけるを、からうじて盗み出でて、いと暗きに来けり。芥川といふ河を率て行きければ、草の上に置きたりける露を、「かれは何ぞ。」となむ男に問ひける。行く先多く、夜も更けにければ、鬼ある所とも知らず、神さへいといみじう鳴り、雨もいたう降りければ、あばらなる藏に、女をば奥に押し入れて、男、弓・胡籠<sup>やなぐる</sup>を負ひて戸口にをり。はや夜も明けなむと思ひつつあたりけるに、鬼、はや一口に食ひてけり。「あなや。」と言ひけれど、神鳴るさわぎに、え聞かざりけり。やうやう夜も明けゆくに、見れば、率て來し女もなし。足ずりをして泣けども、かひなし。

白玉か何ぞと人の問ひしき露と答へて消えなましものを

これは、二条の後の、いとこの女御<sup>にょうご</sup>の御もとに、つかうまつるやうにてゐたまへりけるを、かたちのいとめでたくおはしければ、盗みて負ひて出でたりけるを、御せうと、堀河の大臣<sup>おとど</sup>、太郎国経の大納言、まだ下臙<sup>げらぶ</sup>にて、内裏<sup>うち</sup>へ参りたまふに、いみじう泣く人あるを聞きつけて、とどめて取り返したまうてけり。それを、かく鬼とはいふなりけり。まだいと若うて、後のただにおはしけるときとや。

## 伊勢物語・第七段

かへる浪なみ

昔、男ありけり。京にありわびて、東あづまに行きけるに、伊勢・尾張をはりのあはひの海づらを行くに、浪のいと白く立つを見て、

いとどしく過ぎゆく方の恋しきにうらやましくもかへる浪かな  
となむよめりける。



## 伊勢物語・第八段

浅間あさまの嶽たけ

昔、男ありけり。京や住み憂かりけむ、東あづまの方に行きて、住み所求むとて、友とする人、ひとりふたりして行きけり。信濃しなのの国浅間の嶽たけに煙けぶりの立つを見て、

信濃なる浅間の嶽に立つ煙をちこち人の見やはとがめぬ



別紙 42

1問 / 14問

妹 次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 44

1問 / 3問

たばかる  
次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 43

社名入る 教科書ウェブ  
106-253 (書名入る)

平曲演奏「祇園精舎」

参考動画：平曲演奏「祇園精舎」



平曲弾き語り奏者 荒尾努

別紙 45

社名入る 教科書ウェブ  
106-253 (書名入る)

平曲演奏「祇園精舎」

参考動画：平曲演奏「祇園精舎」



平曲弾き語り奏者 荒尾努

## 1問 / 2問

次の古語の意味を答えよ。

にほん

[解答を見る](#)

## 1問 / 5問

- 軽く歌う  
 ひるやく  
 わせゆく

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。

①静かに口ずかる。

## 1問 / 6問

次の表現の意味を答えよ。

①翻訳  
 〈例文〉 さあがでまな言語でできるアプリが登場した。

[解答を見る](#)

## 1問 / 5問

次の古語の意味を答えよ。

よし

[解答を見る](#)

1問 / 3問

[解答を見る](#)

やや 次の古語の意味を答えよう。

1問 / 1問

かたみ 次の古語の意味を答えよう。

[解答を見る](#)

1問 / 5問

[リセット](#)[解答](#)

良  
薬ハ  
苦シ  
口ニ

1問 / 8問

[リセット](#)[解答](#)

登ル  
山ニ

1問 / 4問

**解答****リセット**

先 サン  
レバ  
即 スナハチ  
制 シテ  
人 ヒト  
後 ルホク  
レバ  
則 チナハ  
チ  
為 ナル  
ニ  
人 ヒト  
所 ホト  
ト  
制 スル



1問 / 4問

**解答****リセット**

及 ビテ  
レ  
時 ヒ  
ニ  
当 マサニ  
シ  
勉  
励 ス



1問 / 13問

**解答****リセット**

聞 ク  
ニ  
弦 ヅ  
歌  
之 ノ  
声 ヲ



1問 / 9問

**解答****リセット**

未 イマダ  
ニ  
嘗 かつテ  
敗  
北 セ



## 1問 / 7問

吾  
盾  
之  
堅  
物  
莫  
能  
一  
陷  
也。  
わが  
たて  
の  
きつ  
もの  
まつ  
よくな  
い  
とほす  
なり。

莫シ

シ

例文

例文

次の句形の読みと意味を答えよう。

解答を見る

## 1問 / 2問

直  
不  
百  
一  
耳。  
直ダ  
不ル  
ニ  
百  
一  
歩ナラ  
耳。

直シ

シ

例文

例文

次の句形の読みと意味を答えよう。

解答を見る

## 1問 / 2問

未  
成  
一  
人  
之  
蛇  
成ル。  
未ダ  
成ラ  
ニレ  
成  
一  
人  
の  
蛇  
成ル

未シ

シ

例文

例文

次の句形の読みと意味を答えよう。

解答を見る

## 1問 / 1問

故  
鄉  
何  
獨  
在  
長  
心  
泰  
身  
寧  
是  
歸  
處。  
故ハ  
郷ハ  
何ノ  
獨リ  
在ニ  
長ラ  
心ヤ  
泰ナ  
シ  
身キ  
寧キ  
は  
是ニ  
歸ス  
處ト

故シ

シ

例文

例文

次の句形の読みと意味を答えよう。

解答を見る

別紙 62-1

1問 / 1問

夜 春  
来 眠  
風 不<sub>レ</sub>  
雨ノ 覚<sub>エ</sub>  
声 曉<sub>ヲ</sub>

解答

リセット

◀ ▶

別紙 62-2

1問 / 1問

拳<sub>レ</sub> 牀<sub>しやう</sub>  
頭<sub>かうべヲ</sub> 前<sub>ミ</sub>  
望<sub>ニ</sub> 看<sub>みル</sub>  
山<sub>月</sub> 月<sub>ヲ</sub>  
月<sub>ヲ</sub> 光<sub>ヲ</sub>

解答

リセット

◀ ▶

別紙 62-3

1問 / 1問

勸<sub>レ</sub> 渭<sub>み</sub>  
君<sub>ニ</sub> 城<sub>じやうノ</sub>  
更<sub>ニ</sub> 朝<sub>う</sub>  
尽<sub>クセ</sub> 雨<sub>は</sub>  
一<sub>ニ</sub> 涅<sub>うるは</sub>  
一杯ノ 軽<sub>けい</sub>  
酒<sub>一</sub> 塵<sub>ぢんヲ</sub>

解答

リセット

◀ ▶

## 1問 / 1問

白	烽	感	国
頭	火	時	破
搔	連	花	山
更	三	濺	河
短	月	涙	在

解答

渾	家	恨	城
欲	書	別	春
不	抵	鳥	草
勝	万	驚	木
簪	金	心	深

リセット

## 1問 / 1問

心	匡	遺	日
泰	廬	愛	高
身	便	寺	睡
寧	是	鐘	足
是	逃	欹	猶
歸	名	枕	慵
処	地	聽	起

解答

故	司	香	小
郷	馬	炉	閣
何	仍	峰	重
独	為	雪	衾
在	送	撥	不
長	老	簾	怕
安	官	看	寒

リセット

## 1問 / 2問

北 西 被  
地 門 ル  
園 樹 A  
教 人 B  
客 移  
寄 去  
居 去

西 例文  
門 ノ  
樹 ハ  
人 ニ  
移  
去  
去

被ル  
ノ  
ハ  
ニ  
レ  
セ  
セ

次の句形の読みと意味を答えよう。

解答を見る

解答

リセット

## 1問 / 1問

不 紙 西 消  
言 裹 門 息  
妻 生 樹 寂  
子 薑 被 夢  
飢 称 人 三  
寒 薬 移 月  
苦 種 去 余

為 竹 北 便  
是 籠 地 風  
還 昆 園 吹  
愁 布 教 著  
懊 記 客 一  
惱 痞 寄 封  
余 儲 居 書

## 1問 / 1問

柴 休  
扉 道  
暁 他  
出 鄉  
霜 多  
如 苦  
雪 辛

君 同  
汲 袍  
川 有  
流 友  
我 自  
拾 相  
薪 親

解答

リセット

## 1問 / 1問

解答

仙 挲 なげうち  
階 我 ガ  
人 百  
不 ヴ 年 ノ  
見 エ 命 ヲ

唯 換 ハン  
聴 ク 君 ガ  
玉 一  
琴 ノ 片 ノ  
声 ヲ 情 ニ

リセット

## 1問 / 2問

解答を見る

次の句形の読みと意味を答えよう。

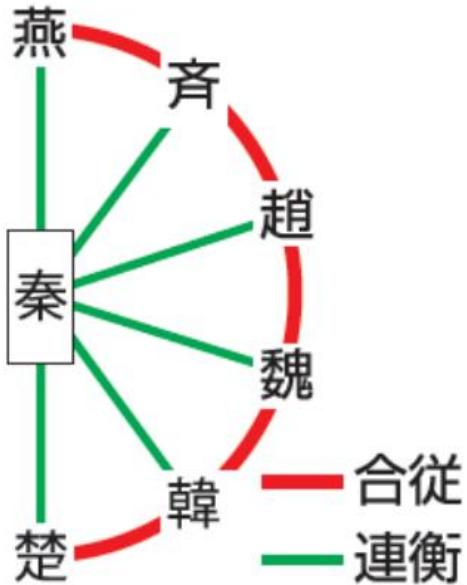
為ニ 莫シ ム  
大王ノ 若クハ  
計莫シ ム  
六国ノ  
従親シテ  
以もツテ  
擅クリニ  
秦しんヲ

例文

## 合従連衡

戦国時代は、秦・燕・齊・楚・趙・魏・韓（戦国の七雄）などが抗争を繰り返した時代であるが、西方の秦にいかに対処するかが他の六国の動きを左右した。蘇秦は、秦を除く六国が南北に同盟して秦に対抗する「合従」（「従」は「縦」と同義）を、張儀は、六国それが秦と東西に同盟する「連衡」（「衡」は「横」と同義）を掲げ、諸侯に説いた。蘇秦の合従は前333年に成立したが、その後瓦解し、張儀の連衡は前311年に成立したが、これもやがて解消した。六国の提携離反は、その後さまざまであったが、前231年に秦の始皇帝によって併合統一された。ここに戦国時代は終わる。

〈模式図〉



1問 / 2問

解答を見る

卷之三

見レ

欲	レ	スレバ	見	レ
不	レ	ハント	レ	シ
与	ヘ			
畏	レ			
秦	ノ			
強	ヲ			
欲	レ	スレバ	見	ルヲ
与	ヘント			
恐	ル			
見	ル			
欺	カ			

次の句形の読みと意味を答えよう。

## 澠池の会



## 【書き下し文】

秦王使者をして趙王に告げしむ、「王と好を為し、西河の外の1澠池に会せんと欲す。」と。趙王秦を畏れ、行くこと母からんと欲す。<sup>2</sup>廉頗・藺相如計りて曰はく、「王行かずんば、趙弱くして且つ怯なるを示すなり。」と。趙王遂に行く。相如従ふ。廉頗送りて境に至り、王と訣れて曰はく、「王の行、道里を度るに、会遇の礼畢はりて還るまで、三十日を過ぎざらん。三十日にして還らずんば、則ち請ふ太子を立てて王と為し、以つて秦の望みを絶たん。」と。王之を許し、遂に秦王と澠池に会す。

秦王酒を飲み酣にして曰はく、「寡人窃かに聞く趙王音を好むと。請ふ瑟を奏でんことを。」と。趙王瑟を鼓す。秦の御史前み、書いて曰はく、「某年月日、秦王趙王と会飲し、趙王をして瑟を鼓せしむ。」と。藺相如前みて曰はく、「趙王窃かに聞く秦王善く秦声を為すと。請ふ盆缶を秦王に奉じ、以つて相娛樂せん。」と。秦王怒りて許さず。是に於いて相如前みて缶を進め、因りて跪きて秦王に請ふ。秦王缶を擊つことを肯ぜず。相如曰はく、「五歩の内、相如請ふ頸血を以つて大王に濺ぐことを得ん。」と。左右相如を刃らんと欲す。相如目を張りて之を叱る。左右皆靡く。是に於いて秦王懼ばざるも、為に一たび缶を擊つ。相如顧みて趙の御史を召し、書かしめて曰はく、「某年月日、秦王趙王の為に缶を擊つ。」と。秦の群臣曰はく、「請ふ趙の十五城を以つて秦王の寿を為さんことを。」と。藺相如も亦曰はく、「請ふ秦の3咸陽を以つて趙王の寿を為さんことを。」と。秦王酒を競ふるまで、終に勝ちを趙に加ふること能はず。趙も亦盛んに兵を設けて以つて秦を待つ。秦敢へて動かず。

(『史記』廉頗藺相如列伝)

## 【口語訳】

秦王は使者を遣わし、趙王に、「王と親交を結び、西河（黄河以西の地）の外側にある澠池で会合したい。」と告げさせた。趙王は秦を恐れて行かないでおここうとした。廉頗と藺相如は相談して、「王がお出かけにならなければ、趙が弱く、かつ臆病であることを示すことになります。」と言った。そこで趙王は出かけた。相如がお供をした。廉頗は国境まで送ると、王に別れを告げて言った、「このたびの王のお出ましについて、道程を計算してみますと、会見の儀礼が終わってご帰還なされるまで、三十日をこえることはないでしょう。三十日たつてもご帰還なさらなければ、どうか太子を即位させて王にし、秦の野望を絶たせてください。」王はこれを許可し、そして秦王と澠池で会合した。

秦王は酒を飲み、酒宴がたけなわになるところ言つた、「私は、趙王が音楽がお好きだと聞いております。どうか瑟を演奏していただきたい。」趙王は瑟を弾いた。秦の御史（記録係）が進み出て、次のように書き記した、「某年某月某日、秦王は趙王と会合して酒宴を開き、趙王に瑟を弾かせた。」すると蘭相如が進み出て言つた、「趙王は、秦王が秦の音楽にご堪能だと聞いております。盆缶（酒などを入れる器）を秦王にお捧げして、お互いに楽しみたいと存じます。」秦王は怒つて聞き入れなかつた。そこで相如は進み出て缶を差し出し、ひざまずいて秦王に請うた。秦王は缶をたたくことを承知しなかつた。相如は言つた、「〔大王と私の距離は〕わずか五歩です。私の首の血を大王に浴びさせさせていただきますぞ。」秦王の側近たちは相如を斬り殺そうとしたが、相如が目をむいて怒鳴りつけると、皆退いた。そこで秦王は、しぶしぶ趙王のために缶を一遍たたいた。相如は振り返つて趙の御史を呼び寄せ、次のように書かせた、「某年某月某日、秦王は趙王のために缶をたたいた。」秦の群臣が言つた、「趙の十五の都市を献じて、秦王の長寿への祝福としていただきたい。」すると蘭相如も言つた、「秦の咸陽を獻じて、趙王の長寿への祝福としていただきたい。」秦王は酒宴を終えるまで、とうとう趙より優位に立つことはできなかつた。趙の本国でも、大いに軍備を整えて秦に備えたので、秦は行動を起こすことができなかつた。

1 潼池　今の河南省潼池県の西。

2 廉頗　前二八三一前二四〇。趙の武将。

3 咸陽　秦の都。今の陝西省西安市の北西。



## 【言語活動】孔子のエピソードを調べる 参考資料

## 参考資料：孔子年譜

西暦	年	事項
74	69	魯(山東省)の曲阜に誕生。 (一説に、前551年誕生。)
64	62	父の叔梁絶死去。
58	57	夫の叔梁絶死去。
56	55	結婚。(孔子家語による。)
48	43	このころ、魯の大夫季氏に仕え、やがて魯に仕える。
36	24	母の顔徵在、死去。
20	19	季氏に追われて国外に出た昭公のあとを追つて、齊に行く。
1	3	このころ、齊から魯に帰り、しだいに弟子が増えた。
三桓子(孟氏・叔氏・季氏)の勢力を抑えようとして失敗。		
魯を去り、衛に行く。以後十四年間、曹・宋・鄭・陳・蔡など諸国を遊説して巡る。		
魯から陳へ行く途中、匡人に拘禁される。衛に戻る。		
衛から曹、さらに宋へ行く。宋では、司馬の桓魋に命を狙われる。宋から鄭、鄭から陳へ行く。		
陳に三年間滞在。陳に三年間滞在。陳から葉(楚の邑)。葉から蔡への帰途、長沮・桀溺に会う。		
楚の昭王に招かれて行く途中、陳・蔡の大夫に包围される。楚に入り、同年、衛に戻る。		
衛から魯に帰り、弟子を教育して經書を整理する。		

⑧

⑦ ⑥

⑤ ④ ③

②

①

※丸囲み数字はエピソードに対応。

## 孔子のエピソード

\*丸囲み数字は年譜に対応。



### ①音楽に感動する

子 さい 在りて、韶さう を聞くこと三月さんげつ、肉の味を知らず。曰はく、「國らざりき、樂をが 为ることの斯こ に至らんとは。」と。

### 〈口語訳〉

孔子が斉の国に滞在し、韶（伝説上の聖人舜しゆん が作ったという音楽）を聞くこと数か月、「心醉のあまり」肉のうまみもわからなかつた。そして言うことには、「思いもよらなかつた。音楽というのが、これほどまでにすばらしく作ができるものだとは。」

（述而第七）

### ②弟子を諭す

#### 〈書き下し文〉

原思げんし 之これ が宰さい と為な る。之これ に粟九百ぞく を与よ ふ。辭じ す。子曰はく、「母ま かれ。以も つて爾なんぢ の隣里隣里 鄉党きょうとう に与よ へんか。」と。

### 〈口語訳〉

「孔子が魯ろ の大司寇だいしく となつたとき、門人の」原思げんし がその執事となつた。「孔子は」彼に俸禄米九百ほろくまい を与えようとしたが、「原思は」辞退した。孔子は言つた、「辭退してはいけない。『多すぎるというのなら、』それをお前の隣近所隣近所 に与えてやればよからう。」

（雍也第六）

### ③魯る を去る

#### 〈書き下し文〉

齊人さいじん 女樂じょがく を歸おくる。季桓子きくわんし 之の を受け、三日朝あさ せず。孔子行く。

### 〈口語訳〉

斉の人が、「孔子の力で国政盛んとなつた魯に」女樂団を贈つてきた。季桓子（魯の大夫たいふ）はそれを受け取り、三日も朝廷に出なかつた。孔子は「魯国を」去つた。

## ④ 匡に拘禁される

〈書き下し文〉

子 匡に畏れて曰はく、「文王既に没するも、文茲に在らざらんや。天の将に斯の文を喪ぼさんとするや、後死の者 斯の文に与かることを得ざるなり。天の未だ斯の文を喪ぼさざるや、匡人其れ予を如何せん。」と。

〈口語訳〉

孔子が匡の地で危難に遭ったとき、次のように言った、「文王はすでにお亡くなりになつたが、その文化はこの我が身に伝わっているぞ。もしも、天がこの文化を滅ぼそうとしているならば、後代の私はそれに携わることはできなかつたはずだ。天がまだこの文化を滅ぼさないからには、匡の連中がいつたい私をどうしようというのか。どうすることもできまい。」

## ⑤ 衛を去る

〈書き下し文〉

衛の靈公 陳を孔子に問ふ。孔子対へて曰はく、「俎豆の事は、則ち嘗て之を聞けり。軍旅の事は、未だ之を学ばざるなり。」と。明日遂に行く。

〈口語訳〉

衛の靈公が孔子に戦陣についてたずねた。孔子は、「祭器のことなら以前から聞いておりますが、軍隊のことはまだ学んでおりません。」と答えると、翌日すぐに「衛の国を」去つてしまつた。

(衛靈公第十五)

## ⑥ 隠者に会う

〈書き下し文〉

長沮・桀溺 稲して耕す。孔子之を過ぎ、子路をして津を問はしむ。長沮曰はく、「夫の輿を執る者は誰と為す。」と。子路曰はく、「孔丘と為す。」と。曰はく、「是れ魯の孔丘か。」と。曰はく、「是れなり。」と。曰はく、「是れなれば津を知らん。」と。桀溺に問ふ。桀溺曰はく、「子は誰と為す。」と。曰はく、「仲由と為す。」と。曰はく、「是れ魯の孔丘の徒か。」と。対へて曰はく、「然り。」と。曰はく、「滔滔たる者、天下皆是れなり。而して誰か以つて之を易へん。且つ而其の人を辟くるの士に従はんよりは、豈に世を辟くるの士に従ふに若かんや。」と。耰して輶めず。子路行きて以つて告ぐ。夫子憮然として曰はく、「鳥獸は与に群れを同じくすべからず。吾 斯の人の徒と与にするに非ずして誰と与にせん。天下 道有らば、丘は与に易へざるなり。」と。



### 〈口語訳〉

〔隠者の〕長沮と桀溺が、並んで地を耕していた。孔子がそこを通りかかり、子路に渡し場をたずねさせた。長沮が言った、「あの馬車の手綱を持っている人は誰かね。」子路が「孔丘です。」と言うと、長沮は「それは魯の孔丘かね。」「そうです。」と言うと、長沮は「それならば渡し場を知っているだろう。」と言った。そこで桀溺にたずねると、桀溺は「お前さんは誰かね。」と言った。「仲由です。」と言うと、桀溺は「それでは魯の孔丘の弟子かね。」「そうです。」と答えると、桀溺は「どんどん流れてもいいものには、この川だけでなく、世の中すべてがそうだ。誰にこれを改められよう。まあお前さんも、あの者もだめ、この者もいけないと言つて人を避けるような人物に従うよりは、世の中を避ける人物に従つたほうがよいのではないかね。」と言つて、まいた種の土かけをしてやめなかつた。子路が彼らから離れ、このことを申し上げると、先生はがっかりして言われた、「鳥や獸とはいっしょに暮らすことはできない。私は、この人という仲間といっしょにいるのではなくて、誰といっしょにいよう。世界中に道が行われているならば、私、丘は、彼らとともに世の中を改めようなどとはしないのだ。」

(微子第十八)

### ⑦陳・蔡の難

#### 〈書き下し文〉

陳に在りて糧を絶つ。従者病みて能く興ること莫し。子路惱み見えて曰はく、「君子もまた窮すること有るか。」と。子曰はく、「君子固より窮す。小人窮すれば斯に濫る。」と。

#### 〈口語訳〉

陳の国で食糧が尽き、従者たちは疲れて立ち上ることもできなかつた。子路が不満な様子でお目にかかるて言つた、「君子でも困窮することがあるのですか。」すると孔子は言つた、「君子ももちろん困窮する。だが、小人は困窮すると取り乱すものだ。」

(衛靈公第十五)

### ⑧弟子の死

#### 〈書き下し文〉

顏淵死す。子曰はく、「あ、天 予を喪はせり、天 予を喪はせり。」と。

#### 〈口語訳〉

顏淵が死んだ。孔子は言つた、「ああ、天は私を滅ぼした。天は私を滅ぼした。」

(先進第十一)



常用漢字表

案	安	嵐	宛	扱	圧	握	悪	喫	愛	挨	哀	亞
アン	アン	アラシ	アタマ	アフ	アツ	アグ	アウ	アク	アイ	アイ	アイ	ア
アシ	アシ	アラシ	アタマ	アフ	アツ	アグ	アウ	アク	アイ	アイ	アイ	ア
異	尉	胃	畏	為	威	委	依	医	圓	位	衣	以
コト	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ
チナ	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト
老	一	育	域	緯	遺	慰	維	違	意	彙	椅	偉
ヂナ	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト	ヒト
韻	隠	飲	陰	淫	院	貞	姻	咽	因	印	引	芋
イン	カハシ	イン	イン	イン	イン	イン	イン	イン	イン	イン	イン	イヅ
英	泳	永	え	雲	運	浦	畝	鬱	唄	雨	羽	宇
エイ	エイ	エイ	エイ	ウン	ウン	ウラ	ウラ	ウラ	ウラ	ウラ	ウラ	ウ
悦	駅	液	益	疫	易	衛	銳	影	詠	營	榮	映
エフ	エキ	エキ	エキ	エキ	エキ	エキ	エキ	エキ	エキ	エキ	エキ	イヅ
煙	園	援	媛	宴	怨	炎	沿	延	円	閑	謁	越
ケイケン	エン	エン	エン	エン	エン	エン	エン	エン	エン	エン	エン	エフ
央	凹	王	汚	お	艶	縁	演	塩	鉛	遠	猿	猿
オウ	オウ	オウ	オウ	オ	エン							
憶	億	屋	岡	横	奥	翁	桜	殴	欧	旺	押	往
オク	オク	ヤオク	オカ	ヨコ	オウ							
化	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下
バハ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ

常用漢字表

この表は、「常用漢字表」(平成二十二年内閣告示)をもとに、常用漢字一二三六字を字音により五十音順に配列したものである。調だけ認められているものは調により示した。漢字の下のかなは訓(太字)は「送りがな」の付け方による送りかなを示す。傍線を付した音訓は用法の狭いものである。色字の漢字は小学校の配当漢字を示す。

常用漢字表

家	夏	架	科	苛	河	果	価	佳	花	何	假	可	加
い	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	ひ
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ
蚊	課	稼	箇	歌	寡	靴	禍	暇	嫁	過	渦	貨	華
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ
掲	怪	改	戒	快	会	灰	回	介	饑	雅	賀	芽	画
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	ガ	ガ	ガ	ガ
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	ガ	ガ	ガ	ガ
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	ガ	ガ	ガ	ガ
壞	潰	解	楷	塊	階	開	繪	械	皆	界	海	悔	悔
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ
柿	垣	骸	概	該	蓋	慨	街	涯	崖	害	劫	外	貝
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ
学	穢	嚇	獲	確	闊	隔	較	覺	郭	殼	核	革	括
マナブ	マク	カク											
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ
轄	褐	滑	葛	割	湯	喝	活	括	鴟	頸	額	藥	岳
カブ	カブ	カブ	カブ	カブ	カブ	カブ	カブ	カブ	カブ	カブ	カブ	カブ	カブ
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ
乾	陷	看	卷	冠	官	肝	完	缶	汗	甘	刊	千	刈
カハカ	カン	カハカ											
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ
慣	漢	惑	幹	寬	勸	閑	間	款	棺	敢	換	堪	寒
カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ
丸	鑑	艦	韓	觀	簡	環	館	還	憇	緩	監	欽	管
ミラ	ガン	カハカ	カン	カハカ									

常用漢字表

忌	希	岐	氣	机	危	伎	企	願	頑	眼	玩	岩	岸	含
いいむ 年	ひ	き	き	き	あやうい む	う	き	がん						
喜	龜	規	寄	基	帰	鬼	飢	起	記	既	紀	季	奇	汽
え	くめ	き	よ	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き	き
欺	偽	宣	技	騎	機	輝	鐵	器	棄	毀	貴	棋	期	揮
き	い	せん	ぎ	き	き	き	てつ	き	き	き	き	き	き	き
九	虧	逆	脚	客	却	詰	喫	吉	菊	議	犠	戲	儀	義
く	え	ぎゃく	きゃく	きゃく	く	づ	きつ	きつ	きく	ぎ	ぎ	ぎ	ぎ	ぎ
救	宮	糾	級	急	泣	究	求	白	朽	休	旧	丘	弓	久
きゅう	くに	きゅう	きゅう	きゅう	きゅう	きゅう	きゅう	きゅう	きゅう	きゅう	きゅう	きゅう	きゅう	きゅう
凶	漁	御	魚	距	許	虛	舉	拋	拒	居	巨	去	牛	窮
きゆう	ぎょ	ご	ぎょ	きょ	きょ	きょ	きょ	きょ	きょ	きょ	きょ	きょ	きょ	きゅう
教	強	脅	胸	恭	恐	狹	挟	峽	況	協	供	享	京	狂
きょう	きょう	きょう	きょう	きょう	きょう	きょう	きょう	きょう	きょう	きょう	きょう	きょう	きょう	きょう
玉	極	局	曲	凝	業	暎	仰	驚	響	競	鏡	矯	橋	境
たま	きょく	きょく	きょく	きょく	きょく	きょく	きょく	きょく	きょく	きょく	きょく	きょく	きょく	きょく
区	銀	吟	襟	謹	緊	禁	僅	筋	琴	勤	菌	金	近	均
く	ぎん	ぎん	いん	きん	きん	きん	きん	きん	きん	きん	きん	きん	きん	きん
縁	熊	窟	掘	屈	串	隅	遇	偶	空	愚	惧	具	驅	苦
いん	くま	くつ	く	く	く	く	く	く	く	ぐ	ぐ	ぐ	ぐ	く

常用漢字

常用漢字表

港	慌	喉	黃	梗	控	康	高	降	貢	航	耕	校	候	香
みなと	アハラ	アハラ	コウ	コウ	コウ	カマキ	タカ	カタ	コン	カウ	コウ	カウ	カウ	ラバ
号	乞	購	講	鋼	衡	興	稿	醸	網	構	鉱	溝	項	絞
ゴウ	ク	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ
駒	骨	獄	酷	穀	黒	国	刻	谷	告	克	豪	傲	剛	拷
コウ	ゴク	コク	コク	コク	コク	コク	コク	コク	コク	コク	コク	コク	コク	コク
佐	左	懸	墜	魂	紺	痕	混	婚	根	恨	昆	困	今	頃
サ	ヒナリ	ノン	コシ	コシ	コシ	コシ	コシ	コシ	コシ	コシ	コシ	コシ	コシ	コシ
彩	裁	宰	碎	采	妻	災	再	才	挫	座	鎮	詐	嗟	唆
イカシ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ
在	墇	際	載	歲	塞	催	債	裁	最	菜	細	齋	祭	濟
アザイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ
刷	札	冊	唉	錯	搾	醉	策	索	柵	昨	削	作	崎	罪
スツ	サフ	サフ	サク	サク	サク	サク	サク	サク	サク	サク	サク	サク	サク	サク
傘	產	慘	蚕	棧	參	山	三	皿	雜	擦	撮	察	殺	拶
カサン	ウラサン	ウラサン	ミン	サン	サン	サン	サン	ミン	サン	サン	サン	サン	サン	サン
司	史	仕	氏	止	支	子	士	暫	斬	殘	贊	酸	算	散
シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
肢	祉	姊	始	刺	使	私	志	伺	至	系	死	旨	矢	市
シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ

常用漢字表

飼	資	詩	試	嗣	齒	詞	紫	視	脂	紙	恣	志	施	指	思	姿
カシ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
治	侍	事	兒	似	自	耳	次	寺	字	示	諮	擊	雌	誌	シ	シ
ナガシ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	シ	シ
疾	室	失	叱	七	軸	識	式	鹿	璽	餌	磁	辭	慈	滋	時	持
シツ	ル	シツ	モジ	モジ												
煮	斜	赦	射	者	舍	車	社	写	芝	実	質	漆	嫉	湿	執	シツ・シツ
ニヤウ	ニヤウ	シツ														
守	主	手	寂	弱	若	爵	釂	酌	借	尺	蛇	邪	謝	遮	シツ	シツ
モリ	シテ	シテ	シテ	シテ	シテ	シテ	シテ	シテ	シテ	シテ	シテ	シテ	シテ	シテ	シテ	シテ
儒	需	授	呪	受	寿	趣	種	腫	臥	酒	珠	首	狩	朱	シツ	シツ
ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ
習	羞	終	袖	修	臭	秋	拾	宗	周	秀	舟	州	囚	收	樹	ジユ
ナシウ	シユ	シユ	シユ	シユ	シユ	シユ	シユ	シユ	シユ	シユ	シユ	シユ	シユ	シユ	シユ	シユ
重	柔	住	充	汁	十	襲	蹴	醜	醜	愁	集	衆	就	週	シツ	シツ
カカシ	オジ	シユ														
出	熟	塾	縮	肅	淑	宿	祝	叔	縱	獸	銃	渢	從	ジユ	ジユ	ジユ
シナ	ジラ	ジラ	ジラ	ジラ	ジラ	ジラ	ジラ	ジラ	ジラ	ジラ	ジラ	ジラ	ジラ	ジラ	ジラ	ジユ
處	遵	潤	準	順	循	純	殉	准	盾	巡	旬	瞬	春	俊	術	ジユ
ショ	ジョン	ウ	ジン	ジユ												

## 常用漢字表

常用漢字

正	世	牲	羣	操	蹤	槽	正
即	職	贈	藏	憎	增	像	造
總	層	想	僧	裝	葬	喪	創
搜	倉	送	草	莊	相	奏	走
組	粗	措	素	租	祖	阻	狃
鮮	纖	薦	選	遇	線	潛	錢
旋	栓	扇	染	洗	淺	泉	專
舌	說	節	攝	雪	設	接	折
誓	隻	雙	脊	席	析	昔	赤
政	齊	青	性	征	聲	西	成
生	逝	淒	省	牲	羣	操	蹤

常用漢字表

率	卒	統	賊	屬	族	俗	測	側	速	捉	息	則	促	足	東
ひさしきり	そつ	とう	ぞく	ぞく	ぞく	ぞく	そく	そく	そく	とく	そく	そく	そく	そく	とう
駄	情	墮	唾	妥	打	汰	多	他	た	遙	損	尊	孫	村	存
だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	た	とん	そん	そん	そん	そん	とん
滞	隊	貸	替	逮	袋	堆	泰	帶	退	胎	息	待	耐	体	対
とど	たい	かす	かす	たい											
諾	灌	託	拓	卓	沢	択	宅	滝	題	第	台	代	大	戴	態
だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ
嘆	短	淡	探	胆	炭	单	担	旦	丹	誰	棚	奪	脱	達	但
なげむ	たん	だれ	たな	たな	たな	たな	たん								
知	池	地	ち	壇	談	暖	彈	断	段	男	団	鍛	誕	綻	端
しる	いけ	ぢ	ち	だん											
茶	室	秩	築	蓄	逐	畜	竹	緻	置	稚	痴	遲	致	恥	值
チャ	シツ	チ	ツク	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ
駐	鑄	酌	衷	柱	疊	注	抽	忠	宙	沖	虫	仲	中	嫡	着
ちゅう	いのえ	いのえ	ちゅう												
貼	朝	鳥	頂	釣	眺	彫	張	帳	挑	長	町	兆	序	弔	丁
はる	あさ	とり	とう	つる	ほる	のこ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ
珍	沈	抄	勑	直	懲	聽	調	澄	潮	嘲	微	跳	勝	超	
めずらしい	シン	ショウ	チク												

常用漢字表

鶴	爪	坪	漬	塚	痛	通	墜	椎	追	鎮	貨	陳	朕
つる	つる	つば	づけ	づか	づか	づか	つい	つい	つい	ちん	かん	ちん	ちん
偵	停	通	庭	訂	帝	貞	亭	郎	抵	底	定	弟	廷
てい	てい	つう	てい	てい	てい	てい	てい	らう	つひ	てい	てい	てい	てい
鐵	哲	透	溺	敵	通	滴	摘	笛	泥	締	艇	提	堤
てつ	てつ	とう	ねき	てき	つう	てき	てき	笛	ね	てい	てい	てい	てい
電	殿	伝	田	填	転	添	展	点	店	典	天	撤	徹
でん	でん	でん	でん	でん	でん	でん	でん	でん	でん	でん	でん	でん	でん
冬	刀	怒	度	努	奴	土	賭	塗	都	途	徒	妬	吐
ふゆ	とう	かたな	だ	だ	だ	ど	ど	と	と	と	と	と	と
党	透	討	桃	島	唐	凍	倒	逃	到	東	豆	投	當
とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう
糖	踏	稻	統	簡	等	答	登	痘	湯	棟	搭	塔	盜
とう	ふまえる	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう
瞳	導	銅	働	道	童	堂	動	胴	洞	同	騰	闊	頭
とう	ひとみ	とう	どう	とう									
頓	豚	屯	届	突	凸	枋	読	獨	毒	罵	篤	督	特
とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん
二	に	難	軟	南	鍋	謎	梨	内	泰	那	井	晏	鈍
ふたつ	ふたつ	なん	なん	なん	な	な	な	な	な	な	どん	どん	どん

常用漢字表

年	熱	寧	ね	認	忍	妊	任	尿	乳	入	日	虹	肉	勻	式	尼
とし	あつい	ねい	みこめる	にん	しのばせ	じのう	にん	まかせる	ニコラ	ニコ	に	ヒカル	ヒカル	ニ	おひ	
派	波	把	は	濃	農	腦	能	納	惱	の	燃	粘	捻	念	ネ	
は	なみ	は	は	こい	のう	のう	のう	のう	のう	のう	ねん	ねん	ねん	ねん	ね	
壳	葦	廢	敗	排	配	俳	肺	背	杯	拝	罵	婆	馬	霸	破	
くわ	わい	はい	ぱい	ばい	ばい	ばい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	ぱい	
博	船	剥	迫	泊	拍	伯	白	賠	買	媒	陪	培	梅	倍	ペ	
はく	ぱん	はく	ぱく	はく	ぱく	ぱく	はく	ぱく	ぱく	ぱく	ぱく	ぱく	めい	ばい	ペ	
抜	伐	髮	發	鉢	八	肌	畑	箸	箱	爆	縛	漠	妻	薄	ハ	
ぬき	ばつ	はつ	はつ	はつ	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	ハ	
畔	班	版	板	阪	坂	判	伴	汎	帆	犯	氾	半	反	閥	罰	
はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	は	
皮	比	盤	蠻	番	晚	藩	繁	範	頒	煩	搬	飯	班	販	般	
かわ	ひ	ばん	ばん	ばん	ばん	ばん	ばん	ばん	ばん	ばん	ばん	ばん	ばん	ばん	ばん	
碑	費	屏	悲	被	秘	疲	飛	卑	非	肥	披	彼	否	妃	ヒ	
ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ヒ	
水	氷	百	姬	筆	泌	必	匹	肘	膝	鼻	微	備	美	眉	尾	
こおり	ひ	ひ	ひめ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	
頻	寶	貧	浜	品	猫	描	病	秒	苗	標	漂	評	票	依	表	
ひん	ひ	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	

常用漢字表

赴	負	計	訃	附	卓	怖	府	扶	布	付	父	夫	不	瓶	敏
おもむく	おもい	おもむくする	おもい	おもむく	おもむく	おもい	おもむく	おもむく	おもむく	おもむく	おもい	おもい	おもい	おもい	おもい
風	封	舞	部	武	侮	譜	賦	膚	腐	普	富	符	婦	浮	フ
ふう	ふう	まう	ぶ	ブ	ム	ブ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ
霧	紛	粉	物	仏	沸	払	覆	複	腹	福	復	幅	副	服	フ
フ	フ	フ	フ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ
陸	柄	並	併	兵	平	丙	聞	文	分	書	憤	噴	噴	噴	ヘ
りく	へい	なが	なが	へい	へい	へい	ぶん	ぶん	ぶん	ぶん	ふん	ふん	ふん	ふん	ヘ
変	返	辺	片	蔑	別	癖	壁	米	餅	蔽	弊	幣	埠	閑	ハ
かわる	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす
墓	募	母	舗	補	捕	哺	保	歩	勉	便	弁	編	遍	偏	ホ
はか	は	ぼ	ほ	ほ	ほ	ほ	ほ	ほ	ほ	ほ	ほ	ほ	ほ	ほ	ホ
做	俸	胞	泡	法	放	抱	宝	奉	邦	芳	包	方	薄	暮	ホ
ならう	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ
妨	忘	妨	坊	忙	乏	亡	豐	蜂	報	訪	崩	峰	峰	峰	ホ
ふせぐ	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ホ
北	煩	謀	膨	暴	貌	貿	棒	帽	傍	望	紡	冒	某	房	ホ
きた	ホク	ほ	ぼ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ホ
麻	盆	凡	翻	奔	本	堀	勃	撲	墨	僕	朴	木	木	木	マ
ま	あま	オム	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	マ

常用漢字表

滿	万	抹	末	又	枕	膜	幕	埋	昧	枚	妹	每	魔	磨	摩
みちる	マン	マツ	マツ	また	マツ	マツ	マツ	うめの	マイ	まい	まい	まい	マ	みま	マ
務	矛	む	眠	民	妙	脈	蜜	密	岬	魅	味	未	漫	慢	
つづみ	ぼ	こ	ねひむ	みん	ミン	ミウ	ミツ	ミツ	みさき	あじわう	ミ	ミ	マン	マン	
滅	鳴	銘	盟	冥	迷	明	命	名	め	娘	霧	夢	無	ない	アヅ
ほろびる	メフ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	ムキ	ム	ム	ム	アヅ
門	默	目	網	猛	耗	盲	妄	毛	模	茂	も	麺	綿	面	免
かど	モク	だま	モク	モク	モク	モク	モク	モク	モク	モク	モク	メン	メン	メン	メン
由	由	間	躍	葉	訖	約	役	厄	弥	野	夜	治	や	問	紋
よし	ユ	やみ	やく	カク	カク	ヤク	ヤク	ヤク	ヤ	のや	よや	ヤ	ヤ	モン	モ
遊	裕	猪	湧	郵	悠	幽	勇	有	友	唯	癒	輸	論	愉	油
あそぶ	ユウ	エ	エ	エ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユ	ユ	ユ	ユ
洋	妖	羊	用	幼	預	譽	余	予	与	よ	優	融	憂	誘	雄
ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ
養	窯	踊	瘍	樣	腰	溶	陽	葉	搖	揚	庸	容	要		
やう	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	
雷	來	羅	裸	拉	ら	翼	翌	欲	浴	沃	抑	曜	謠	擁	
ライ	ライ	ラ	ラ	ラ	ラ	ヨク	ヨク	ヨク	ヨク	ヨク	ヨク	ヨク	ヨク	ヨク	
病	理	里	利	吏	リ	欄	藍	濫	覽	卵	亂	辣	酩	落	絡
かみなり	リ	リ	リ	リ	リ	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン

常用漢字表

リュウ	リュウ	リス	リク	リフ	リフ	リフ	リフ	リフ	ラ						
リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	ラ

リョウ															
リス															

レイ	レ	ライ	ルイ	ルイ	ルイ	ルイ	ルイ	リン	リョウ						
リス															

オレフ	レフ	レイ													
リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス

モロウ	ロウ	ロウ	フロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	レン	レン	レン	レン	レン	レン	レフ
リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス

はなし	ワ	ロン	ロク	ロク	ロク	ロク	ロク	ロク	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ウ
リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス

うわん	ワン	ワケ	カノ	カノ	カノ
リス	リス	リス	リス	リス	リス

當月道二卷

以下にあげられている語を構成要素の一部とする熟語に用いてもかまわない。例「河岸(かし)」→「魚河岸(うおがし)」「居士(じし)」→「一言居士(いちごんじ)

もみじ 紅葉  
もみじ 木棉

社名入る 教科書ウェブ  
106-253 (書名入る)

虫の鳴き声 参考動画

参考動画：きりぎりす（こおろぎ）の声



動画 : NHK/Getty Images

社名入る 教科書ウェブ  
106-253 (書名入る)

参考動画：まつむし（すずむし）の声



動画 : 栗林慧/JAPAN4K/アプロ

社名入る 教科書ウェブ  
106-253 (書名入る)

参考動画：ひぐらしの声



動画 : NHK/Getty Images

106-253 (書名入る) / 卷末図録・地図 / 図録 / 古文参考図録（古典に表れる動植物）/ 虫の鳴き声 参考動画

社名入り 資料館ウェブ  
106-253 (書名に入る)

雅楽に使用する楽器 参考動画

参考動画：笙（合奏：笙・横笛・簞篥）



雅楽同友会/ユニフォトプレス

社名入り 資料館ウェブ  
106-253 (書名に入る)

参考動画：三の鼓（合奏：三の鼓・横笛・簞篥）



雅楽同友会/ユニフォトプレス

社名入り 資料館ウェブ  
106-253 (書名に入る)

参考動画：笏拍子（合奏）



雅楽同友会/ユニフォトプレス

社名入り 資料館ウェブ  
106-253 (書名に入る)

参考動画：琵琶（合奏：琵琶・箏・簞篥）



雅楽同友会/ユニフォトプレス